多摩大学大学院MBA GUIDE BOOK 2022

多摩大学大学院MBA GUIDE BOOK 2022

私たちの挑戦

修了生座談会
在学生 & 修了生VOICE

TAMA GRADUATE SCHOOL OF BUSINESS
多摩大学大学院
品川サテライトキャンパス

TAMA GRADUATE SCHOOL OF BUSINESS
多摩大学大学院
品川サテライトキャンパス

INNOVATORSHIP

教育理念

志

多摩大学大学院MBAは、

志ある

一業を担う経営者（社長・事業部長・変革型ミドル）

一業を起こす起業家（イントラプレナー・アントレプレナー）

を育てる実学志向のビジネススクールです。

沿　革

- 1989 多摩大学開設
  （設置者／学校法人 田村学園理事長 田村邦彦）
  野田一夫 学長就任
  多摩大学総合研究所開設
- 1993 大学院修士課程開設
  鈴木雪夫 研究科長就任
- 1995 大学院博士課程開設
  中村秀一郎 学長就任
  グレゴリークラーク 学長就任
- 1999 日下公人 研究科長就任
- 2001 中谷 巌 学長就任
  青山浩一郎 研究科長就任
  ルネッサンスセンター開設
- 2003 河村幹夫 研究科長就任
- 2004 情報社会学研究所開設
  品川サテライトキャンパス開設
- 2005 統合リスクマネジメント研究所開設
- 2006 ロジスティクス経営・戦略研究所開設
  宇佐美 洋 研究科長就任
- 2008 野田一夫 学長代行就任
- 2009 寺島実郎 学長就任
  実学5ドメインに基づく新カリキュラムスタート
- 2011 八王子サテライト開設（2014年3月閉設）
- 2013 統合リスクマネジメント研究所を
  医療・介護ソリューション研究所へ改組
- 2014 徳岡晃一郎 研究科長就任
  公開講座リニューアル
  多摩大学大学院プロジェクトリーダーシリーズ開講
- 2016 ルール形成戦略研究所を開設
- 2017 MBAルール形成戦略コース創設
- 2018 社会的投資研究所を開設
- 2020 河野龍太 研究科長就任

Message

学長メッセージ

これからの時代を主体的に生き抜くための“知の再武装”を！

学長のメッセージ動画をご覧いただけます。

社会人大学院としてMBAコースを開設以来、多摩大学大学院は950名に迫る卒業生を世に送り出し、すでにそれぞれの分野で中核的な地位を占める人材も多く、社会に対し一定の役割を果たしていることを喜んでいます。それは、実際に企業経営の現場に立ってきた経験豊富な教授陣による実践指導による実学教育の成果であると自負しております。

私自身は、第一次石油危機の起きた1973年に三井物産に入社し36年間、経営情報と企画を担当してきましたが、私の人生を変えることになったイランにおける石油化学プロジェクト（IJPC）には思い出深いものがあります。1979年にイラン革命、翌年にイラン・イラク戦争が勃発、このプロジェクトは今でもハーバードビジネススクールのMBAコースで、革命と戦争というカントリーリスクを学ぶ際のケーススタディとして必ず登場します。

私はイスラエルのテルアビブ大学、ロンドンの国際戦略研究所、ワシントンのブルッキングス研究所を行き来し、革命後のイランでいかにこのプロジェクトを乗り越えるかという課題に専心していました。結果として三井グループは大きな教訓を残してこのプロジェクトからの撤退を余儀なくされたのですが、このプロセスにおいて「課題解決型の企業経営」の重要性を思い知らされました。

本大学院の果たすべきこれからの役割を考えるとき、世界潮流の変化とそれに向き合う企業の課題に目を向けないわけにはいきません。その一つは、アジアダイナミズムであり、もう一つが、AI・ビッグデータ時代を睨んだDX、デジタルトランスフォーメーションです。ビジネスの世界に身を置く諸氏の中には、このことを実感されている方も多いことでしょう。

多摩大学大学院は、MBAをベースとして時代のニーズと課題に立ち向かっていく力を持った人間を生み出し、さらに専門性の高い分野として、データ志向経営、医療、金融、NPO・NGO、ルール形成戦略、社会的投資などの専門を身につけることができます。本学の教授陣は現実社会との対峙から得られた貴重な経験を実際に役立つ形に体系化し、マネジメントの本質を追究しています。新しいプロジェクトに参画する情熱を持った社会人たちと相まみえることに期待を膨らませています。

100歳人生を生き抜くには人生のどこかの段階で改めて自分と向き合い、自分に必要な知とは何かを問いかけることが必要になります。これからは、新しい先端的な研究の成果を吸収する「知の再武装」が必要になります。あなたも多摩大学大学院で“知の再武装”に挑戦して下さい。

知の武装なしに、これからの時代を主体的に生き抜くことは困難です。

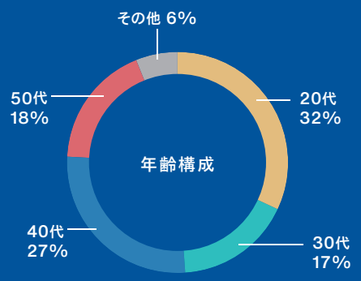
多摩大学学長　**寺島 実郎**

TERASHIMA Jitsuro

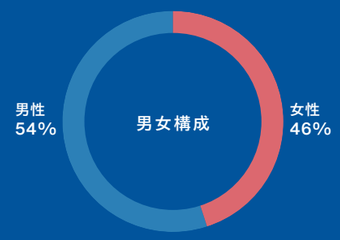
Profile　1947年北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科修士課程修了後、三井物産入社。米国三井物産ワシントン事務所長、三井物産常務執行役員、三井物産戦略研究所所長・会長、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授等を歴任し、現在、一般財団法人日本総合研究所会長を務めるほか、文部科学省 日中韓大学間交流・連携推進会議委員、経済産業省 資源エネルギー庁総合資源エネルギー調査会基本政策分科会委員、国土交通省 国土審議会計画推進部会委員等兼任。
1994年石橋湛山賞受賞。2010年4月早稲田大学名誉博士学位。
近著に、『日本再生の基軸 平成の晩鐘と令和の本質的課題』（岩波書店）、『（佐高信共著）戦後日本を生きた世代は何を残すべきか われらの持つべき視界と覚悟』（河出書房新社）、『（寺島実郎監修）全47都道府県幸福度ランキング2020年版』（東洋経済新報社）。
その他に、主な著書は、『ジェロントロジー宣言 「知の再武装」で100歳人生を生き抜く』（NHK出版新書）、『ひとはなぜ戦争をするのか 脳力のレッスンⅤ』（岩波書店）、『ユニオンジャックの矢 大英帝国のネットワーク戦略』（NHK出版）、『シルバー・デモクラシー 戦後世代の覚悟と責任』（岩波新書）、『寺島実郎 中東・エネルギー・地政学ー全体知への体験的接近』（東洋経済新報社）、『二十世紀と格闘した先人たち― 一九〇〇年 アジア・アメリカの興隆』（新潮社）、『新・観光立国論― モノづくり国家を超えて』（NHK出版）、『何のために働くのか― 自分を創る生き方』（文春新書）、他多数。

多摩大学大学院で学ぶ在学生たち

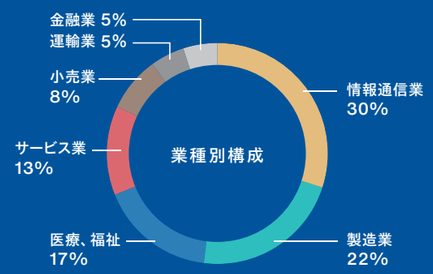
（2021年5月1日時点）



もっとも多い層は20代ですが、40代・50代の層は約45%。マネージャークラスが多く学んでいる点が多摩大学大学院の特徴です。



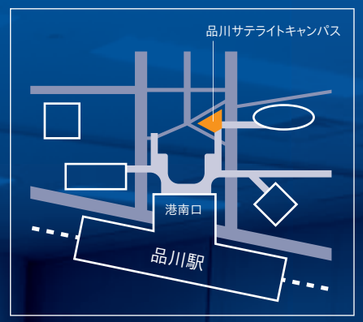
女性の社会進出の拡大にともなって、ビジネスにおける管理者・経営者・起業者を目指す女性が増えています。



多摩大学大学院では、学ぶ院生の業種・職種も実にさまざまです。近年は、在学中や修了後に自らビジネスを起業される方も増えてきています。

品川サテライトキャンパス

キャンパスは、品川駅に隣接した品川インターシティフロントビル。
都内近郊で働きながら学ぼうと考えるビジネスパーソンはもちろん、
新幹線を利用しての通学にも最適なロケーションです。



ACCESS

〒108-0075　東京都港区港南2-14-14 品川インターシティフロント 5階
（品川駅港南口より徒歩1分）

TEL. 03-5769-4170（代）　FAX. 03-5769-4173
E-mail：tgs@tama.ac.jp

Message

研究科長メッセージ

人生を変え、未来を変える実践知を備えたリーダーへ

数あるビジネススクールの中で多摩大学大学院にご関心を寄せていただき感謝いたします。本学が他のビジネススクールと何が違うかについてお話します。

第一に、経営の「実践知」に徹底的にこだわっていることです。世界の先行きは不透明さを増し、企業は多くの難題に囲まれています。現代のビジネスリーダーに必要なのは、経営を学問とする世界のみで意味をもつ洗練された思考や知識ではなく、企業が現実に直面する複雑な問題を解決し、インパクトのある結果を出せる戦略思考力であり、それを可能にする実践的セオリーや経営の本質を捉えた深い知恵でしょう。本学では、各分野における卓越した実務家講師陣を多数揃え、経営の現場で試され鍛えられた選りすぐりの実践知を現代経営の広範な分野にわたって学べます。

また、世界的な経営学者である野中郁次郎先生と本学の徳岡晃一郎教授（前研究科長）とが考案した「イノベーターシップ」という独自コンセプトのもと、イノベーション経営に強みをもつビジネススクールという点も本学の特長です。世界のMBAプログラムで教えられているオーソドックスな知識を学べるのはもちろん、本学が代表的な専門家を擁しリードする知識創造論、デザイン思考、ビジネスモデル、ルール形成戦略など、イノベーション経営の実践に役立つ知がどこよりも多彩で充実していると自負します。

地球環境や格差問題など経済的価値と社会的価値とのコンフリクトが増大していますが、自社だけがうまくいけばそれでよいはずがありません。自社の利得を超えた高次の目的を構想し、社会とその未来にとって正しい選択をする思慮分別と志の高さが、これからのリーダーには不可欠です。本学では、広い視野と深い洞察をもって、自社と社会に対して責任ある判断をし果敢に行動する賢慮なリーダーの育成に力を注いできました。皆さんにとって、これからの世界、日本で活躍する上で必須となる見識と新次元のリーダーシップを磨く場になると信じます。

最後に強調したいのが、卓越した実績、経験をもった実務家講師陣が本学で学ぶ大きな魅力であるという点です。講師の誰もが理論と実践の両方に精通しかつ教えるプロです。独学や単発セミナーとは次元の異なる深い学びが得られるでしょう。

ある著名なグローバル人材教育の有識者から「MBAを超えたMBA」と称された本学の学びのコミュニティで、あなたも「知の再武装」を実現し、21世紀のビジネスと社会における新しい価値をぜひ一緒に作っていきませんか。

多摩大学大学院 研究科長　**河野 龍太**

KONO Ryuta

Profile　博報堂、博報堂ブランドコンサルティング、ITベンチャー数社の経営参画を経て、イノベーション＆マーケティングの戦略コンサルティング会社、（株）インサイトリンクを設立、代表取締役社長。世界で最も影響力のある経営思想家を選ぶThinkers50（2015）にも選出されたイノベーション戦略の代表的指導者アレックス・オスターワルダー氏がCEOを務めるStrategyzerの日本人唯一の公認トレーナーとして、国内外企業の戦略プロジェクトや人材トレーニングを多数支援。早稲田大学法学部卒業。英国ウォーリック大学経営大学院でMBA取得。長崎市出身。

なぜ、超実学志向MBAと言われるのか。

ますますグローバル化・複雑化する経営環境下における日本経済・社会の長い閉塞状況は、従来型の価値観・意識の抜本的かつ速やかな変革を求める強いメッセージです。トータルマネジメントの本質を体得し、真の意味での「志ある一業」を実践し成果を上げる経営者は、ときに既成組織内における新規事業の総責任者（intrapreneur：イントラプレナー）として、また組織をも創り出す創業者（entrepreneur：アントレプレナー）として新しい時代を切り拓いていくことでしょう。

多摩大学大学院は、「何のための理論か」「何に役立つ知識なのか」を常に追求し、あらゆる実践に対して条理と確信を与える理論的基礎と、現実を表層的ではなく本質的に理解する言葉と行動力を養うことを教育の基本方針としています。実際の問題の分析や解決にはさまざまな知識と柔軟で多様なアプローチスキルの活用に加え、短期的ではなく本質的解決を創造的に見出してゆく構想力が、強く求められます。経営実学とは、学術的学問ではなく、まさに経験を理論化した実践的学問なのです。教授陣には、産業界における最新の実務経験が豊富で、現実との対峙から得られた貴重な経験をさまざまな状況で役立つ形に理論化し、実践知にまで高めて、みなさんに伝えられる人材を多数そろえています。

カリキュラム群を貫くコンセプトは「イノベーターシップ」です。それは現実を転換する熱い思いとしたたかな実践知。その力を少数精鋭のクラスで2年間、しっかりと磨いてほしいと願っています。そして、本学の院生であったことから生まれる教授陣や仲間との深いネットワークは必ずや生涯にわたるかけがえのない財産となることを確信しています。

Reason 1
第一線の実務家講師陣から、
［生きた実践知］を学べる
詳しくは P.07-08 P.19-28

Reason 2
［少人数クラス］で、深く、濃く、丁寧に学ぶ
詳しくは P.09-10

Reason 3
MBA基礎から
イノベーション経営までマスターできる
［独自のカリキュラム］
詳しくは P.11-12

Reason 4
リーダーシップを超えた
［イノベーターシップ］を修得できる
詳しくは P.13-14

Reason 5
一人ひとりの現実課題を解決する
［ゼミと修論プロジェクト］
詳しくは P.15-16

CONTENTS

Side A

教育理念／沿革 …… P.01
学長メッセージ …… P.02
多摩大学大学院で学ぶ在学生たち／品川サテライトキャンパス …… P.03
研究科長メッセージ …… P.04
なぜ、超実学志向MBAと言われるのか。 …… P.05
Reason 1 …… P.07
Reason 2 …… P.09
Reason 3 …… P.11
Reason 4 …… P.13
Reason 5 …… P.15
履修プラン …… P.17
教員からのメッセージ …… P.19
教員紹介 …… P.23
TOPICS イノベーションの世界的第一人者と学ぶ …… P.29
特別プログラム ライフシフト大学プログラム／品川塾 …… P.30
入学者選抜について …… P.31

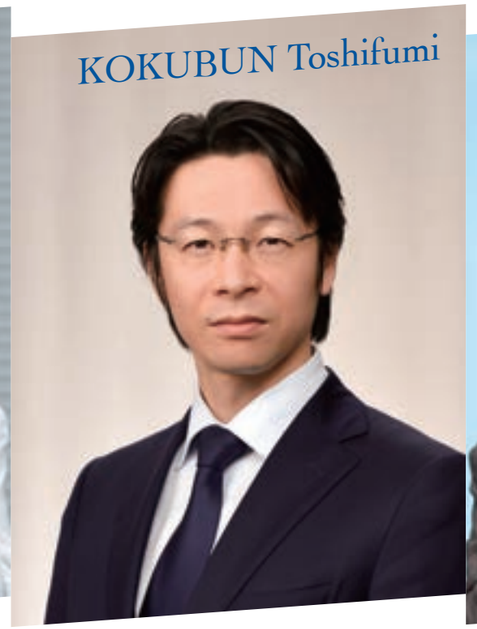
Side B

裏表紙からお読みください

「私たちの挑戦」

修了生座談会 …… P.01
在学生 & 修了生VOICE …… P.03

第一線の実務家講師陣から、
[生きた実践知]を学べる



田坂 広志

永年、日米のシンクタンクの世界を歩んだ知的プロフェッショナルとしての経験と、数々の大企業の経営トップの戦略参謀を務めた経験をもとに、極めて実践的な講義を行っている。また、総理大臣へのアドバイザーである内閣官房参与を務めた経験や、世界経済フォーラム（ダボス会議）のメンバーとして各国の大統領や首相と交流してきた経験に基づき、政治・行政に対する広汎な知見と国際感覚に基づく講義を行っている。同時に、多くの経営者が学ぶ私塾を主宰していることから、講義においては、深い人間観、人生観、死生観、宗教観も語る。

『運気を引き寄せる
リーダー 七つの心得』
光文社新書

紺野 登

日本における「知識創造」「ナレッジマネジメント」および「デザイン思考」「デザイン経営」、「場の経営」などの提唱者の一人として、1990年代から数多くの研究と実践を手がけてきた。また、戦略における物語アプローチ（2008年）や、イノベーションにおける目的の役割（目的工学：2013年）を打ち出すなど、常に先端的なコンセプトを打ち出している。イノベーションの場としてのフューチャーセンターなどの普及も行っている。『構想力の方法論』（2018年）では構想力の経営、リベラルアーツの重要性を提言している。

『イノベーション全書』
東洋経済新報社

徳岡 晃一郎

イノベーターシップの生みの親。日産自動車で人事制度設計や教育、風土改革などを担当。カルロス・ゴーン元CEOのもとで日産のV字回復のために一緒に仕事をした経験を持つ。その後はコミュニケーションと人事が専門の米大手コンサルティング会社に移りパートナーとして、日本企業のV字回復、風土改革、組織活性化などに取り組んできた。多摩大学大学院ではこれら実践的な経験を知識創造の観点から理論化し新しい人事制度（MBB）を伝えている。現在ではライフシフト社を起業し、人生100年時代のキャリア設計指南の講座を大学院でも展開している。

『未来を構想し、
現実を変えていく
イノベーターシップ』
東洋経済新報社

國分 俊史

日本を代表するルール形成戦略と経済安全保障の専門家。この両分野は米中の衝突が日本企業の経営戦略に与える影響、デジタルテクノロジーの進展が新しい市場形成に与える影響など、これまでの企業戦略論やマーケティング論を根底から揺るがす新しい分野だ。この専門領域の気鋭のコンサルタントとして、日本の政財界はもとより、欧米のシンクタンクやインテリジェンス機関とも太いパイプを持つ日本で数少ない存在であり、この領域を理解する人材や専門家を早急に増やすために多摩大学ルール形成戦略研究所を創設し所長も務めている。

『エコノミック・
ステイトクラフト
経済安全保障の戦い』
日本経済新聞出版

堀内 勉

近年ESG投資として話題の社会的投資やインパクト投資分野の研究で草分け的存在だ。マネー資本主義や株主価値至上主義の弊害が顕在化してきた今、ステークホルダー資本主義や渋沢栄一の「論語とそろばん」というバランスの取れた金融が世界中で唱えられている。興銀を振り出しに日米の金融機関や不動産企業で従来型の資本主義世界で活躍してきたが、社会課題解決型の金融をいち早く提唱し切り拓いてきた。その理論と実践をソーシャルインパクトビジネスのフィールドで展開するとともに、多摩大学社会的投資研究所副所長も務めている。

『読書大全 世界の
ビジネスリーダーが
読んでいる経済・哲学・
歴史・科学200冊』
日経BP

金野 索一

ビジネス、政治、市民社会を横断して活躍する「トライセクターリーダー」の輩出を目指し、日本政策学校の校長など幅広く活躍。「世界から貧困や飢餓を無くす」をミッションに掲げ、金儲けではなく、平和な世界実現のためにテクノロジーを活用する「Peace Tech」を提唱。一般社団法人Peace Tech Foundationを設立し、世界各国の専門家と連動し精力的に活動する。早くから日本の起業家育成に関わり、近年はAIやICTで社会的課題解決に挑むソーシャル・アントレプレナー創出を後押しする。

『未来の選択
僕らの将来は、
政策でどう変わる?』
金野索一＋日本政策学校編
ディスカヴァー・トゥエンティワン

第一線で活躍する経験豊富な実務家講師陣が圧倒的に充実
ビジネスの問題解決に直結する生きた実践スキル、知恵を学べます

多摩大学大学院MBAでは、「志」「イノベーション」「顧客創造」というように、独自に体系化された13のフィールドすべてにおいて、ビジネスの第一線で活躍する実務家講師陣より基本理論から実践スキルまで、統合的・横断的に学ぶことができます。企業、官公庁をはじめとした、幅広いフィールドで豊富な実務経験を有する講師陣は、自らの経験をメソッド化し、実体験や想いを交えながら講義を行っています。

■ 講師の数

実践知考具

- 志 …… 3名
- イノベーション …… 5名
- 顧客創造 …… 9名
- リーダーシップと人事 …… 9名
- ファイナンス&ガバナンス …… 7名
- データドリブン経営 …… 10名

最新ビジネス実践知

- アジアビジネス戦略 …… 5名
- ヘルスケア …… 6名
- ソーシャルインパクトビジネス …… 9名
- テクノロジー&ベンチャー …… 6名
- ルール形成戦略 …… 5名

教養基盤

- 本質思考力 …… 5名
- 留学生支援 …… 5名
- 論文演習 …… 10名

各フィールドを担当する講師数は兼任（同一教員の重複）を含む

[少人数クラス]で、深く、濃く、丁寧に学ぶ

大人数クラスのビジネススクールとは違い、講師や受講生同士の距離が近い【少人数クラス】をすべての授業で展開。深く、濃く、丁寧に学べます。ハイフレックス授業の導入により、通学とオンラインの2つの形式を自分のライフスタイルに合わせて、場所を選ばず受講することができます。

世代を超えた多種多様の業種・職種の志を持った院生が、
ディスカッション形式の講義を通じて、高度な課題解決に立ち向かっています。

多摩大学大学院の授業満足度	キャリア形成するうえで有用な知識等の修得度	多摩大学大学院の総合満足度
満足	修得できた	満足
96.5%	100%	100%

2021年度3月修了生調査(回収率80.6%)

自分のライフスタイルにあったまさに良いとこ取りの学び

多摩大学大学院の講義は、対面講義とオンライン講義のどちらかを選択できるハイフレックス講義が展開されています。対面講義では、実務に精通した講師から対面ならではの熱量を感じることができます。オンライン講義は、時間と場所さえ確保すれば出張先やプライベート先に関わらず受講できるため安心感が持てます。

講義は毎日開講されていて、学びの目的に沿って選択することが可能です。また、講義は少人数で構成されており、対面・オンラインに関係なく発言や質問する機会が多くなります。少人数クラスで実務家の講師に質問できることは、講義の理解を深め明日にでも使える実践知となっています。

私にとって多摩大学大学院での学びは、受講方法に選択の幅を持つことができ、さらに即ビジネスに応用できることで、自分のライフスタイルにあったまさに良いとこ取りの学びとなっています。

ASP Japan 合同会社
セールスプランニング マネージャー
萩之内 幹博 さん（2021年4月入学）

時代の変化に対応できる知識の武装

多摩信用金庫
経営戦略室
三田 大祐 さん（2020年4月入学）

多摩大学大学院は、多種多様なバックグラウンドを持つ院生が集まります。多くの院生に共通することは、現状に満足することなく現在の仕事や社会に対する課題を解決したい、自らの知識をアップデートしたいという思いを持っていることです。そのような熱量のある院生と講義を通じてダイアローグしていると、今までの世界観を大きく変えることができるとともに、新たな発想がうまれ、今まで悩んでいた課題に対する解決策がふと考えつくことがあります。このような場を支えるのが、超実学思考の教授陣です。時代の最前線で活躍している教授陣による、少人数で熱量のある対面講義に加え、時代の変化に応じたオンライン授業も展開しています。

このような環境で学ぶことが、変化の激しい時代においても通用する知識の武装に繋がります。

多摩大学大学院には、志ある目標を応援してくれる環境がある

メーカーに勤務していた折、いつか起業をしたいと考えビジネススクールへの入学を検討していた際に多摩大学大学院の存在を知りました。多摩大学大学院へ進学を決意した理由は、他のビジネススクールと違い、教授陣と院生の距離が近く、“とことん少人数”にこだわった授業展開をしていることが自分に合っている点、また、一般的なビジネススクールの講義領域に加えてソーシャルビジネスなどの他の領域を多数学べる大学院は、殆ど見当たらなかった点です。大学院で学んだことを活かして、修了後すぐに起業をしました。現在でも、マーケティングの基礎やKPIを考えながら事業を数値化させて考える癖など、おおいに役立っています。また同期の繋がりや、入学期を超えた経営者同士の繋がりが、現在も継続されているのも『全ては縁であり』大学院で培った大切な資産です。

株式会社Pont D'or ／フィル株式会社
代表取締役
青山 美恵子 さん（2015年3月修了）

MBA基礎からイノベーション経営までマスターできる

[独自のカリキュラム]

【MBA基本理論＋イノベーターシップ＝突破力のあるリーダーを育成する新しいMBA】

マネジメントの基本理論からイノベーションの専門メソッドと実践知まで総合的に学べる新時代のリーダーのためのMBAプログラムです。

MBAコース授業一覧

	13フィールド	カリキュラム
実践知考具	志	●スーパージェネラリスト　●ネオ・リベラルアーツ　●経営者の志と実践知　●企業理念経営 ●ライフシフト：人生の成長戦略
	イノベーション	●知識創造経営のプリンシプル　●イノベーションマネジメントシステム（IMS）と目的工学 ●デザイン思考ワークショップ　●シナリオプランニングワークショップ　●ビジネスモデルイノベーション ●ビジネスモデル創造特論　●イノベーターのための顧客創造戦略 理論と実践技法　●経営戦略概論 ●起業／社内起業の事業創造実践論　●グローバル技術経営論
	顧客創造	●マーケティングマネジメント概論　●インサイトコミュニケーション　●プレミアム価値創造のブランド戦略 ●Webマーケティング戦略　●サービスイノベーション　●日本の流通構造とSCMのメガトレンド ●最新ロジスティクス戦略　●BtoBマーケティング　●経営視点からのコンタクトセンターの活用 ●観光インバウンドマネジメント　●商品ブランドマネジメント
	リーダーシップと人事	●ヒューマンリソース概論Ⅰ・Ⅱ　●インナーコミュニケーション　●カルチャーベースマネジメント ●実践組織変革　●ストレスマネジメントと精神回復力　●組織行動とリーダーシップ ●ケーススタディ 組織を動かす変革型リーダーシップ論　●キャリアマネジメントとモチベーション ●実践ポジティブ心理学　●オーセンティックリーダーシップ
	ファイナンス&ガバナンス	●ファイナンス基礎Ⅰ（経営財務）　●ファイナンス基礎Ⅱ（リスクマネジメント）　●法の経済分析入門 ●組織と戦略の経済学　●企業会計・簿記入門　●企業分析と経営指標 ●M&A戦略と実践企業ファイナンス　●行動経済学　●マネジリアル・アカウンティング ●夢をかなえる実践リスクマネジメント　●ファイナンスイノベーション実践 ●中小企業の価値創造と事業承継
	データドリブン経営	●マーケティングリサーチ　●データ活用入門　●集中ゼミ（統計検定）　●統計的データ分析 ●DX変革：データサイエンスによる企業変革　●DX変革：AI/Watsonに学ぶ知のデジタル化の実践知 ●クリティカルシンキング　●データドリブンの戦略構築　●マーケティング実践　●サービスサイエンス
最新ビジネス実践知	アジアビジネス戦略	●世界潮流と企業戦略　●日中企業比較論　●日本企業の中国ビジネス
	ヘルスケア	●日本の製薬企業の未来　●医療・介護マネジメントの実践知　●医療・介護経営Ⅰ・Ⅱ ●高齢社会のまちづくり　●異業種間のコミュニケーション術　●地域包括ケアのビジネスモデル ●ヘルスケアビジネスイノベーション
	ソーシャルインパクトビジネス	●非営利法人のファイナンス　●ソーシャルビジネス演習　●トライセクターリーダー論 ●実践を通して学ぶソーシャルビジネス　●ソーシャル・ファイナンス　●まちづくり最新事情 ●ベンチャー CFO養成講座　●持続可能な地域社会と地域金融
	テクノロジー&ベンチャー	●最新テクノロジーとAIの世界　●ITビジネス原理と事業創出演習　●SDGs（社会課題）×Techビジネス ●先端ITマーケティングイノベーション　●プロジェクト・マネジメントの基本と応用　●日本のモノづくり経営 ●実践事業創造　●ベンチャー企業論
	ルール形成戦略	●社会課題起点のルール形成戦略　●国際通商と企業のルール形成　●経済安全保障Ⅰ・Ⅱ ●議院内閣制度における公的ルール形成プロセス論　●ルール形成のためのメディア戦略
教養基盤	本質思考力	●インターゼミ（寺島実郎学長ゼミ）Ⅰ～Ⅳ　●フィールドスタディⅠ～Ⅳ ●ビジネスリーダーのための実践的問題解決　●ビジネス実践知探究　●21世紀の日本の社会課題 ●論文演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　●実践リベラルアーツ論
	留学生支援	●留学生のための日本経済・経営基礎　●留学生のためのビジネス日本地理・日本史Ⅰ・Ⅱ ●ビジネスジャパニーズⅠ・Ⅱ　●論文スタートアップⅠ・Ⅱ　●論文実践Ⅰ・Ⅱ

●…MBA選択必修科目　●…MBA専門科目

実践知考具
マーケティングやファイナンスなどの縦割りの専門を融合した、スーパージェネラリストの知的問題解決の構えとツールを学び、実践力を鍛えます。

最新ビジネス実践知
もはや表層的な知識では世界での勝負に勝てません。世界最先端のベストプラクティスとビジネスモデルを探求し、専門性の深化を図ります。

教養基盤
多摩大学大学院の捉える教養とは、ビジネス構想力の基盤です。時代認識をより深め、視界を広げることで、時代を見抜く目を養い、ビジネスチャンスを広げます。

標準修業年限	2年
修了要件	選択必修の単位を含む30単位以上の単位修得と、学位論文審査及び最終試験に合格することが必要です。
学位	修士（経営情報学）
講義時間帯	［月曜日～金曜日］18:30 ～ 21:40　［土曜日・日曜日］9:00 ～ 19:30

2年間の標準的な学修パターン

1年生		2年生	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター
●MBA選択必修科目中心に履修 ●研究計画書	●MBA専門科目を中心に履修 ●各専任教授の論文演習ゼミ履修	●MBA専門科目を中心に履修 ●指導教員と個人研究活動	●学位論文予備審査会 ●学位論文最終試験

多摩大学大学院MBAの基礎となる選択必修科目をはじめ、最前線で活躍する実務系教授陣から、『最新ビジネス環境への理解』、『実践知考具をもとにした知的課題解決力』、『社会を変革しようとする力』、『イノベーションを創り出す力』などの人生を拓く志と実践的スキルを身につけます。

2セメスターより論文演習が始まります。3日間の論文基礎講座で、学位論文の基本的な手法を学ぶと共に、授業の中で、先輩方の論文指導に参加することで、自身の論文の構成を構築していきます。3セメスターより、指導教員、副指導教員の指導の下、学びの集大成として、学位論文を作成します。

▶ イノベーターシップ人材

多摩大学大学院でしか学べない“3つの専門領域”

データドリブン経営　Data-driven Management

データの力とAIの力を活用してデータドリブン経営での課題解決力を身につける

データドリブン経営の現場で活躍する実務家講師陣が、課題解決のノウハウを実践的に伝授。単なるAI適用ではなくビジネスでの現場の知をもとにしたデータ活用とAI活用について修得。IBMとの連携講座では最先端データドリブン経営について伝授します。

特長
1. データサイエンスによる“知の再武装”を図る
2. ビジネスデータの活用についてビジネスとアカデミック両面から学ぶ
3. 世界水準のデータドリブン経営を学べるIBMとの連携講座の開設

ソーシャルインパクトビジネス　Social impact business

社会にインパクトを与えるビジネスを創造する

2015年の国連SDGs（Sustainable Development Goals）の公表以降、NPOやNGOだけでなく、経済的価値を追求する既存の営利企業においても大きな経営課題になっている「社会的価値」を実現するための理念形成から実践的スキルまで、幅広く修得することができます。

特長
1. 日本で初めてソーシャルビジネスを体系的にまとめたコース
2. ソーシャルビジネスの第一人者が結集する教授陣とゲストスピーカー
3. 社会的投資研究所のネットワークを通じたグローバルな広がり

ルール形成戦略　Rule-Making strategy

イノベーションを世に輩出するためのルールを形成する

革新的な技術や製品、社会課題解決型事業モデル、それらが世の中に受け入れられる市場の新たなルールまで自ら構想し、組織力を動員してポリシーメーカーに対して適切なチャネルでアドボカシーを展開して市場を創造する再現性のあるスキルを得ることができます。

特長
1. 政産官学からルール形成戦略の第一人者が結集する教授陣
2. 日本で初めて経済、外交、軍事を一体化した授業である安全保障経済政策を修得
3. 実践的なフィールドワークを通じたポリシーメーカーとのネットワーク構築と政策形成プロセスへの深い理解

リーダーシップを超えた［イノベーターシップ］を修得できる

Innovatorship イノベーターシップとは

イノベーターシップとは、新しい世界を構想し、その実現に向けて自らのなすべきことを考え出し、主体的に実践していく力です。自社の経営目標を達成するだけなら、マネジメントやリーダーシップを磨けば十分でしょう。しかし、本当に価値あるイノベーションを起こすためには、一線を画した力が必要です。未来を描き、ビジネスや事業を創出していく。そうした推進力をもったリーダーたちのDNAがイノベーターシップといえます。

■ イノベーターシップに必要な5つの力

イノベーターシップを築くためには、相互に関連する5つの力が必要です。まず挙げられるのが「未来構想力」。どこへ向かって現実を変えたいのか、未来を描き出す力です。それは、論理や分析などからではなく、情熱や志からしか生まれません。「実践知」は、自分の生き様の中から紡ぎ出す知恵。真摯な挑戦や経験から学び、少しずつ輪郭をはっきりさせていくものです。当然、未来の構想が大きいほど、現実の壁は高いでしょう。その壁を乗り越えるためには「突破力」が欠かせません。力業で押していくだけでなく、腹のくくり方や政治力、発想力など、多面的な解決策でやり抜くことが重要です。「パイ（π）型ベース」とは、1つの専門だけではない幅広い教養を備えた知性のこと。多岐にわたる経験と豊かな知見、的確な判断が、世の中の縦割りの壁を壊すでしょう。そして、未来を実現するために仲間を巻き込み、メンバーをモチベートする力が「場づくり力」です。人がついていきたくなる資質とスキルが、大きな仕事を実現します。

イノベーターシップの修得に欠かせない リベラルアーツ講座が充実

EX.1 ビジネス実践知探究　株式会社編集工学研究所

情報を分別し、昇華されたステージへ
～編集工学研究所と連携した新たな取り組み～

松岡正剛氏が塾長を務める日本の次世代リーダー育成塾「ハイパーコーポレートユニバーシティ[AIDA]」では、複雑さを増す社会を捉えなおす方法として、物事の「間（あいだ）」に着目しています。古今東西の知の世界に触れ、「間」を捉える視点を獲得した塾生は、その知見をビジネスの現場でどのように活かしているのか。塾の卒業生であり各界で活躍するビジネスリーダーたちが講師となり、「間」をテーマにビジネスにおける「教養」の力を語る講義とディスカッションによる実践的教養講座です。物事の関係性を取り扱う知の技法である「編集工学」のスキルも合わせてワークショップ形式で学びます。

株式会社編集工学研究所 取締役 **松岡 正剛**

雑誌『遊』編集長、東京大学客員教授、帝塚山学院大学教授をへて、現在編集工学研究所所長、イシス編集学校校長。日本文化、芸術、生命哲学、システム工学など多方面におよぶ思索から情報文化技術に応用する「編集工学」を確立。システム開発、企業プロデュース、地域文化再生など多彩なプロジェクトを手掛けています。

EX.2 ビジネスリーダーのための実践的問題解決　株式会社プレセナ・ストラテジック・パートナーズ

理論と企業実例で学ぶリーダーのための
問題解決手法を身につける

世界経済フォーラム（World Economic Forum）が発表した「第4次産業革命で活躍するために必要な10のスキル」において、「複雑な問題解決（Complex Problem Solving）」が2015年・2020年ともに1位となっています。今や、グローバルに活躍するビジネスリーダーにとって、組織を正しい方向に導くための問題解決力は不可欠な能力です。
ビジネスリーダーに求められる問題解決・問題解決指導力の理論を体系立てて学んだ後、職場課題から経営課題に至るまでの様々な企業実例を通じて、リーダーに求められる実践力を身につけていきます。

株式会社プレセナ・ストラテジック・パートナーズ
代表取締役社長・グローバルCEO **高田 貴久**

京都大学法学部卒業、シンガポール国立大学（NUS）Asia Pacific Executive MBAコース 修了。ボストン・コンサルティング・グループ等を経て、2005年に株式会社プレセナ・ストラテジック・パートナーズ設立。日本を代表する企業をパートナーとし、世界に通用する人材を育てるため、様々なコンテンツを開発している。主な著書に、ベストセラーとなった「ロジカル・プレゼンテーション」（英治出版）などがある。

一人ひとりの現実課題を解決する

[ゼミと修論プロジェクト]

指導講師と取り組むビジネスの実践に根ざした学位論文(修士論文・実践知論文)は、
自分を飛躍的に成長させるプロジェクトです。ここから話題のビジネス書が誕生することも!
講師やクラスの仲間と共に自らの課題を徹底的に掘り下げるゼミは、手に汗握る白熱教室。
人生の指針や一生の宝が生まれることも珍しくありません。

■ 課題を掘り下げ、問題解決力を磨くゼミ

河野ゼミにおいては、基本的に「実践知論文」を作成、提出することを勧めています。実践知論文は、単なる「知識の修得」ではなく、自身のこれまでの職業分野での経験を徹底的に振り返り、「職業的な智恵」の棚卸しができるからです。
そして、作成した論文は、そのまま新事業の事業企画書であり、事業革新の戦略提言書となるようなものにすることをめざしています。その結果、河野ゼミを修了した院生の多くは、修了後も、その事業企画書や戦略提言書を実現するための活動に取り組んでいます。

■ 本質を提案する修士論文・実践知論文

多摩大学大学院の修士論文は、指導教官がテーマを選ぶのでなく、大学院生が自らのビジネス経験をもとに実践的視点で独自の課題を見つけて仮説を創り、検証、提言する点が特徴ではないでしょうか。
「論文不要」のビジネススクールもありますが、それでは知識を外から獲得するだけ。自ら知を紡ぎ出すことは大変な努力を要しますが、何にも代え難いものをもたらします。紺野ゼミでは、個別指導とグループの対話を組み合わせた場を設けています。

志を込めた修論は、人生を変える行動計画書

在学生が実際に直面しているビジネスに関連するリアルな課題を研究テーマに、イノベーターシップの総仕上げ として、
教授陣とともに実践知に根ざした本質探究&問題解決型の学位論文に取り組みます。
2年間の学びを自分の血肉化し、修了後の人生を飛躍させる知の宝が得られます。

修士論文・実践知論文 最優秀論文賞テーマ(2020年・2021年修了者)

修士論文

2021年度

- 『転勤のあり方 ー製薬会社のMRに転勤は必要かー』
- 『衰退を断ち切り活路を見出してきた企業の研究
  ～ Unfair AdvantageとPivotingによる飛躍モデル～』
- 『ITエンジニアにおける仕事の意識と創造的行動についての
  因果関係モデルの構築 ーマネジャーによる自律的成長の
  支援のための視座と方法ー』
- 『ポスト会社人生における中高年齢者のキャリア・ドライブ
  ～仕事のかざぐるまについての考察～』

2020年度

- 『製薬企業の抗がん剤研究開発戦略に関する研究』
- 『社会課題の解決に向けた民間ビッグデータ活用の提言
  ～高齢者の相対的貧困を事例に～』
- 『企業における優秀なITエンジニア確保のためのリスキリング』
- 『看護師のワーク・エンゲイジメントに関する研究
  ～地方公務員として働く看護師の個人と
  組織の進化をめざして～』

実践知論文

2021年度

- 『ポストコロナ時代におけるワークプレイスの動向と
  新しいコワーキングプレイス事業の可能性探索』
- 『データドリブンのリスク管理に関する研究』
- 『女性のキャリアにおける“マネジメント”の動機づけ
  ー製薬企業T社 営業部門ー』
- 『逆境活用実践経営の雑草戦略
  ～眼科クリニックにおけるポジティブマネジメント～』

2020年度

- 『電気電子業界の温室効果ガス削減貢献に関する
  国際規格によるルール形成戦略』
- 『新規事業創出に向けた
  オープン・イノベーション戦略に関する考察
  ～新たな「不」の解消の実現を目指して～』
- 『T社東京オフィスの「共創価値」に関わる考察
  ～東京オフィスとして「共創価値」を創出し
  顧客の期待に応えるために～』
- 『中小IT企業と高卒者を繋ぐ新就職市場の創造
  ～子どもの貧困問題を解決する提言～』

最優秀論文賞を受賞した修了生3名が多摩大学出版会から出版

人生100年時代が迫るなか、60歳定年を前提に仕事中心に生きてきた多くの中高年ビジネスパーソンたちが、キャリアの危機に直面している。100歳までの人生を社会的にも経済的にもそして精神的にも豊かに生きるには、キャリア寿命を延伸することが必要である。そのカギは学び直しだ。
本書では、時代の変化に合わせて学び続けることを「終身知創」と呼び、修了生3名が執筆した学位論文を基に、その実践例と対策を紹介しています。

『終身知創の時代 終身雇用から終身知創へ 常に学び続ける新しい生き方』
徳岡 晃一郎(著・編集), 名久井 康宏(著), 荒井 千恵(著) 上野 正之(著)
(多摩大学出版会)2021/3/30刊行

自由度の高い履修プラン

学生それぞれの課題解決に向けて、段階的に系統立ったカリキュラムから講座を自由に組み立てることが出来ます。

在学生

三木 直人さん
2020年4月入学

Profile
関西学院大学卒業後、大塚製薬(株)に入社。MRを経て2017年から本社の医薬営業本部に勤務。2020年、MBA取得を目指して本研究科に入学。現在はプロダクトマネージャーを務めながら学修中。

[入学の動機]

自社の経営者育成プログラム研修に選抜され、経営に必要な知識やスキルを学ぶ機会がありました。30代後半で初めて経営という視点を持ったことで、それまでの自分の知識や視野が狭い範囲に限られていたことを知り、体系的かつ実践的な経営知識を養いたいと考えるようになりました。その後、医療経営士の資格取得後に受講した同資格の関連セミナーの先生からMBAの魅力をお聞きして心が決まり、少人数制の授業やディスカッションを中心にしたプログラムに惹かれた本研究科で学ぶことにしました。

[1年目の履修科目]

1年目 春学期	1年目 秋学期
● 日本の製薬企業の未来	● Webマーケティング戦略
● 経営者の志と実践知	● 世界潮流と企業戦略
● 知識創造経営のプリンシプル	● 論文演習Ⅰ

[入学後の実感]

現在、授業はすべてオンライン受講しています。対面式の授業と遜色のない活発なディスカッションが展開されています。異業種の方たちのさまざまな意見や体験談の中に身を置くことで、ビジネス環境の変化や多様化を肌で知ることができ、さらに、企業経営におけるマーケティングとイノベーションの重要性を再認識することもできました。今後も学びと研究を深めていき、目まぐるしく変化するVUCAの時代にあっても論理的に説明できる決断が下せる人材となり、自社の持続的成長に貢献できればと考えています。

1週間のスケジュール

月
出勤。在宅勤務が中心ですが週1〜2日は出社してマーケティング担当責任者として会議への出席、資料作り、各種調整などを行います。通勤時間は長くありませんが車内で授業に関する文献・資料に目を通すことも…。

火・金
在宅勤務&授業。中・長期的な販売戦略を立案するため、さまざまな情報を集めたり、メンバーたちとオンライン・ミーティングを行ったりします。その後、18:30〜21:40のオンライン授業に参加。

水・木
在宅勤務。仕事に没頭する日と決め勉強のことは頭から締め出しています。昨年は一日中家にいる私を見て一緒に遊びたがっていた子どもも、今では大事な仕事をしていることを理解してくれるようになりました

土
授業。7:00〜9:00を予習に充て、9:00〜12:10の授業に参加。全科目が隔週開講なので、授業のない土曜日または日曜日もあり、そういう日に予習・復習をまとめて行っています。

日
授業。午前中に予習・復習・レポート作成などを行い、13:00〜16:10が授業。修了に必要な単位の大部分は1年次に修得できたので、2年次は、今後の製薬企業のあり方をテーマにした修士論文の執筆に集中します。

佐藤 理恵さん
2020年4月入学

Profile
東京農業大学卒業後、管理栄養士の経験を積み、2011年、青年海外協力隊員としてネパールに赴任。帰国後、食品系の会社を経て外資系小売企業に就職。2020年、経営知識を学ぶため本研究科に入学。

[入学の動機]

栄養士として2年間活動したネパールで、現地の同僚たちが「支援だけに頼らず自分たちで雇用を創出したい」「そのためには新しいビジネスが必要だ」と議論する場面に何度も立ち会いました。医療保健分野で働いていた私にとって“雇用や利益を生み出す”という発想自体が新鮮でしたし、皆で議論して学び合う関係にも惹かれました。
帰国後は一般企業に就職しましたが、ビジネス感覚を養うためには実践的な経営知識を体系的に学ぶ必要があると考え、「実学志向」の本研究科への入学を決意しました。

[1年目の履修科目]

1年目 春学期	1年目 秋学期
● 商品ブランドマネジメント	● データドリブンの戦略構築
● 最新ロジスティクス戦略	● ルール形成戦略研究所特別講義
● キャリアマネジメントとモチベーション	● 論文演習Ⅰ

[入学後の実感]

実例を交えた講義や少人数グループでの発表・ディスカッションなどを通して、ビジネスに対する距離が一気に縮まったと感じています。一緒に学ぶ異業種の方たちの話を聞くことで自社を客観的に振り返ることができるようになり、新商品(デリ)の開発という業務を遂行する上では、“売りたいもの”ではなく“買いたいもの”という顧客目線で考える姿勢がこれまで以上に強くなりました。また、人材育成や顧客創造戦略などの分野をさらに深く研究したいという意欲が湧いてきたことも大きな変化です。

1週間のスケジュール

月
勤務時間は8:00〜17:00。定時に帰れることが多いので、帰宅後は食事を済ませてから課題に取り組んだり参考文献を読んだりする時間もたっぷり。熱中しすぎて夜遅くなってしまう時もあります。

火
18:30から授業。帰宅後、さっと夕飯を済ませオンライン授業に臨みます。管理栄養士なので短時間でバランスの良い食事を作るのは得意!授業後に勉強するかどうかは、その日のやる気と相談して決めます(笑)。

水・木
この両日は仕事が忙しいため、帰宅後は無理をせずにエネルギーチャージ。日によってメリハリをつけることが、授業や自習する際の集中力に良い効果をもたらしていると感じています。

金
18:30から授業。当初はオンラインでの授業に不安もありましたが、回を重ねるとグループディスカッションもスムーズに行えることがわかり、違和感なく授業内容に入り込むことができています。

土
授業が一日中続くと頭がパンクしがち(笑)なので、土曜日は午前、日曜日は午後というように履修科目を配分しています。授業を受けるだけでなく、学んだことを夫に話し説明することで定着させる時間に充てています。

日
半日は授業。その後、宿題に取り組みます。予習・復習・宿題など、やることが多くて大変なのは確かですが、自分が勉強したいと思った分野、受けたいと思った科目なので辛さよりも楽しさが上回っています。

Brush up Program for professional

文部科学大臣より「職業実践力育成プログラム(BP)」として認定
多摩大学大学院MBAは、文部科学大臣より「職業実践力育成プログラム(Brush up Program for professional)」の認定を受けています。厚生労働省の教育訓練給付制度とも連携して、社会人の学び直しを支援しています。

厚生労働大臣より「専門実践教育訓練指定講座」として認定
多摩大学大学院MBAは、厚生労働大臣より「専門実践教育訓練指定講座」の認定を受けております。本学にて指定講座を受講し一定の要件を満たす場合、最大112万円がハローワークより支給されます。

修了生

プロジェクトリーダー 編

上野 正之さん
2020年3月修了
JFEスチール株式会社
組織人事部
制度企画室長／
ダイバーシティ推進室長

[入学の背景]

初めて管理職を務めた際、自身の過去の業務経験を言語化できておらず、マネジメントに必要な知識の不足を痛感しました。体系的に学び直しをすることで「自分の言葉」を持ちたいと思ったのが入学理由です。多摩大学大学院の選択理由は、学びの幅の広さ、実践知にこだわる超実学志向、イノベーターシップといった個性的なコンセプトに強くひかれたからです。

1年目 春学期
- デザイン思考ワークショップ
- 社会課題起点のルール形成戦略
- ビジネス実践知探究

1年目 秋学期
- クリティカルシンキング
- ファイナンス基礎Ⅱ(リスクマネジメント)
- カルチャーベースマネジメント

2年目 春学期
- 論文演習
- ヒューマンリソース概論Ⅰ
- 知識創造経営のプリンシプル

2年目 秋学期
- 論文演習
- ヒューマンリソース概論Ⅱ
- ケーススタディ 組織を動かす変革型リーダーシップ論

[身に付いたスキル]

入学と同時に、社内で「働く文化を変える」組織開発のプロジェクトを立ち上げ、授業の学びを様々な場面で即実践することを心がけました。研究論文のテーマとしても深く掘り下げ、社内外に発表するという学びを通じ、自分の中にしっかりと深い実践の知恵を根付かせることができたと思います。これら本学での学びを土台として、さらなる人間成長を遂げたいとの思いが強くなりました。

医療製薬ビジネスリーダー 編

山下 尚子さん
2019年3月修了
医療法人徳洲会
葉山ハートセンター
事務長

[入学の背景]

医療機関は社会貢献・地域貢献という貢献事業であり、革新を念頭に進化し続けています。無資格者である事務職は、病院経営の要であるマネジメント力が必要です。自身のグレードアップが軸となり、「医療+MBA」を学べる体制や、知識労働者として実践的学問の修得と実践できる多摩大学大学院を選びました。その時、上司からは「ガラスの天井打破る」と大きな使命を賜りました。

1年目 春学期
- 医療・介護経営Ⅰ
- ストレスマネジメントと精神回復力
- イノベーションと目的工学

1年目 秋学期
- 医療・介護経営Ⅱ
- 医療・介護マネジメントの実践知
- クリティカルシンキング

2年目 春学期
- 高齢社会のまちづくり
- 地域包括ケアのビジネスモデル
- ヒューマンリソース概論Ⅰ

2年目 秋学期
- 実践組織変革
- ヒューマンリソース概論Ⅱ
- 論文演習Ⅰ

[身に付いたスキル]

現在は、病院経営の参謀役として「組織形成」「問題・課題解決」「共創力・構想力」など大学院で学び得た力が基盤となり、組織を牽引する役割を実践しております。卒業後からが正に実践知の積み重ねとなり、大学院での学びの深堀りをするため新たな学修機会が習慣化するなど、より多くの方とのご縁もいただいております。自身のキャリアデザインを描けるよう、より前向きな人生を磨き続けています。

経営トップ & マネジメント層 編

根岸 慶さん
2021年3月修了
Tigerspike株式会社
代表執行役員

[入学の背景]

経営に携わるようになり、これからの組織のあり方について考えるようになりました。ホラクラシーやティール組織のような新しい組織論を調べていく中で、本学の教授が書かれた記事をいくつか拝見しました。大学院でこのような先進的な内容を学べることがわかり、入学することを決意しました。

1年目 春学期
- マーケティングマネジメント論
- ビジネスモデルイノベーション
- ヒューマンリソース概論Ⅰ

1年目 秋学期
- データドリブンの戦略構築
- サービスサイエンス
- 実践組織変革

2年目 春学期
- スーパージェネラリスト論
- シナリオプランニングショップ
- 論文演習Ⅰ

2年目 秋学期
- イノベーターのための顧客創造戦略 理論と実践技法
- ネオ・リベラルアーツ論
- 論文演習Ⅱ

[身に付いたスキル]

3点あります。①体系立てた、実践的な知識を身につけることができたため、そのまま実務に取り入れることができた、②多摩大学大学院特有の「志」を講義を通じて人間成長を遂げることができ、困難な状況に真っ直ぐに向き合い、乗り越えることができるようになった、③論文作成を通じて、自社のビジネスをより客観的に見ることができるようになった。

紺野 登
KONNO Noboru

Profile　多摩大学大学院教授、エコシスラボ代表、一般社団法人Japan Innovation Network (JIN)Chairperson理事、一般社団法人Future Center Alliance Japan (FCAJ)代表理事。組織や社会の知識生態学(ナレッジエコロジー)をテーマに、リーダーシップ教育、組織変革、研究所などのワークプレイス・デザインなどの実務にかかわる。著書に『ビジネスのためのデザイン思考』、『知識デザイン企業』、『利益や売上げばかり考える人は、なぜ失敗してしまうのか(目的工学)』『イノベーション全書』、野中郁次郎氏(一橋大学名誉教授)との共著に『知力経営』、『知識創造の方法論』『知識創造経営のプリンシプル』、『知識経営のすすめ』『構想力の方法論』などがある。

創造経営の「実践知(フロネシス)」の理論と実践

イノベーションは、かつては技術革新や稀に起きるものと捉えられていましたが、21世紀の企業にとっては中核的な活動になっています。顧客や社会の意識やニーズを共感・洞察して、これまで競争や消費のなかったところに新たな価値を生み出していく、個と組織の知識創造経営の実践なのです。このカリキュラムでは、各テーマのマスターといえる教授陣が理論と実践の両輪でイノベーション経営のエッセンスを修得する場を提供します。すなわち、知識創造理論を基礎において、シナリオプランニングやデザイン思考、従来と異なる価値提供の仕組みとしてのビジネスモデルなど有効なツールについて学べます。リーダーが周囲を巻き込む目的を掲げて駆動するといった、人間としての「賢慮」や組織文化の理解も重要です。さらに経営戦略や経済学の観点からも考えること。これらが、みなさんのイノベーターとしての実践に役立つものと思います。

担当科目 ▶ 知識創造経営のプリンシプル／シナリオプランニングワークショップ 他

田坂 広志
TASAKA Hiroshi

Profile　東京大学卒業。東京大学大学院修了。工学博士(原子力工学)。米国シンクタンク・バテル記念研究所・客員研究員を経て、日本総合研究所の設立に参画。取締役・創発戦略センター所長を務める。世界経済フォーラム(ダボス会議)Global Agenda Council元メンバー。東日本大震災に伴い内閣官房参与を務める。現在、シンクタンク・ソフィアバンク代表。世界賢人会議ブダペストクラブ日本代表。全国から7,000名の経営者やリーダーが集まり「21世紀の変革リーダー」への成長をめざす場、田坂塾の塾長。著書は90冊余。

志、智恵、人間力を併せ持つ「21世紀の変革リーダー」を育成します

多摩大学大学院の建学の精神は、この社会の生々しい現実と格闘し、粘り強く、その変革を実現できる人材の輩出です。しかし、その人材とは、ただ一分野に秀でたエキスパートやスペシャリストではありません。そうした専門家の叡智を束ね、目の前の現実を変革するプロジェクトや組織、企業を統括し、牽引できる人材こそが、いま求められています。それは、言葉を換えれば、思想、ビジョン、志、戦略、戦術、技術、人間力という「7つのレベルの知性」を垂直統合して行動できる「スーパー・ジェネラリスト」の育成に他なりません。そして、このスーパー・ジェネラリストが身につけるべきは、単なる「知識」ではなく、「実学」としての人間学や組織学、世界観や歴史観、すなわち、21世紀の「新たな教養=ネオ・リベラルアーツ」です。それゆえ、このスーパー・ジェネラリストは、必ず、「21世紀の変革リーダー」として活躍していくでしょう。

担当科目 ▶ スーパージェネラリスト／ネオ・リベラルアーツ

「思い」を持った人材こそ知識創造の原点

日本は今、世界がどんどんと結びついて共創するグローバルイノベーション時代のなかで次第に影が薄くなっています。もっと強いリーダー、もっと活性化した組織、もっと本質を深く考える知性と風土が必要です。それを阻んでいるのが短絡的な成果主義人事制度です。その問題はもう何年もの間、叫ばれてきましたが一向に改善されていません。むしろ欧米流の競争原理に基づく成長至上主義の前に組織の疲弊感は高まっています。

この打破のためには新しい人事とリーダーのありようを日本発で提示していかなくてはなりません。そしてVUCAの時代を生き抜く知識創造企業(Knowledge-creating company)に生まれ変わらねばなりません。本学では、成果主義に代わる新しい人事制度のコンセプトであるMBB(Management by Belief:思いのマネジメント)を軸にして、リーダーシップ、人事制度、組織論、コミュニケーション、企業カルチャー、ストレスマネジメントなどを学修することで、活力ある知的組織を創る知恵を学びます。

担当科目 ▶ ヒューマンリソース概論I・II、インナーコミュニケーション、論文演習 他

徳岡 晃一郎
TOKUOKA Koichiro

Profile　東京大学教養学部国際関係論卒。日産自動車人事部、オックスフォード大学留学、欧州日産を経て、1999年よりコミュニケーションコンサルティングで世界最大手の米フライシュマン・ヒラードの日本法人のSVP/パートナーとして人事制度、風土改革、社内コミュニケーション、レピュテーションマネジメント、リーダーシップ開発などに従事。2006年より多摩大学大学院を兼務。2014年研究科長就任。2017 年に(株)ライフシフトを創業しCEOに就任。ライフシフト大学を開校。著書に『MBB:思いのマネジメント』(野中郁次郎教授、一條和生教授との共著)、『イノベーターシップ』など多数。

顧客中心経営の基軸、イノベーションとマーケティングの本質を学びます

「企業の目的は、顧客の創造である」。マネジメントの創造者であるドラッカー氏はこう指摘しました。さらに、そのための2つの基本機能として、マーケティングとイノベーションをあげています。「顧客の創造」こそ、経営の本質。その目的に直接成果をもたらす意味で、マーケティングとイノベーションは経営そのものといえるでしょう。逆に、「顧客の創造」機能が弱体化すると、企業の成長は望めません。長く続く日本企業や日本経済の低迷の本質的な問題もここにあります。今必要なのは、マーケティングとイノベーションを連動させた顧客創造力の強化と戦略自体の進化です。

当カリキュラムでは、ビッグデータなど最先端のテーマを織り込み、成果を上げるリーダーにとってパワフルな武器となる「顧客創造の経営戦略」の新しい枠組みと理論、現場で鍛えた実践知を身につけることができます。21世紀のリーダーに必須の経営戦略とスキルをぜひ一緒に学びましょう。

担当科目 ▶ ビジネスモデルイノベーション、マーケティングマネジメント概論 他

河野 龍太
KONO Ryuta

Profile　博報堂、博報堂ブランドコンサルティング、ITベンチャー数社の経営参画を経て、イノベーション&マーケティングの戦略コンサルティング会社、(株)インサイトリンクを設立、代表取締役社長。世界で最も影響力のある経営思想家を選ぶThinkers50(2015)にも選出されたイノベーション戦略の代表的指導者アレックス・オスターワルダー氏がCEOを務めるStrategyzerの日本人唯一の公認トレーナーとして、国内外企業の戦略プロジェクトや人材トレーニングを多数支援。早稲田大学法学部卒業。英国ウォーリック大学経営大学院でMBA取得。長崎市出身。

宇佐美 洋
USAMI Hiroshi

Profile　東京外国語大学卒。東京大学大学院法学政治学研究科修士。国連世界食糧計画（WFP）企画担当官、保険担当官、特別顧問を歴任。一橋大学商学部客員教授、青山学院大学大学院客員教授、2004年4月より多摩大学大学院教授。専門は金融、法と経済学、統合リスク管理。

ビジネスの「血液（ファイナンス）」と「骨格（法律）」を学ぶ

経営のしっかりとした基盤づくりの新しい方法として、「血の巡りのよい健康な組織体」のためのファイナンスと、「ビジネスの足場づくりとしての法律・制度」の設計方法とを結びつけて一緒に考えましょう。ファイナンスでは、資金調達、投資政策、事業や資産の評価、コーポレートガバナンス、リスクマネジメントの最新の手法を中心に、昨今、日本企業でも生き残りのための不可欠な戦略となっている合併・買収や組織再編についても深く考えます。

さらに、まったく新しい切り口で制度や法律のしくみを広い視野から理解し、環境の激変に対応してビジネスの足場・土俵を設計するためには、従来の法律の勉強のような実定法の条文や判例の解釈ではなく、経済学やファイナンスの切り口をつかって「なぜそのような制度があるのか?」という視点を獲得し、それを実際の組織づくりに応用してみましょう。

ファイナンスと法律の勉強というと、とかく難しそうなイメージや固いイメージが先行しますが、本学の授業では、「目から鱗が落ちる」新しい体験が連続し、いままで知らなかったわくわくするような世界の見方が広がっていくことを実感できます。

担当科目 ▶ ファイナンス基礎Ⅰ・Ⅱ／法の経済分析入門／組織と戦略の経済学 他

座右の銘は「苦中作楽」明るく楽しく深くダイアローグしましょう

これまで4社の上場企業を経験してきました。幸いにも、MBAの肝となる銀行員としての経営戦略、製薬会社の人事戦略の両方を経験し、実践と理論を学ぶことが出来ました。現在、これまで世界を席巻してきた日本的経営の分岐点が来ています。終身雇用制の崩壊、早期退職制度、働き方改革、それに対応するパラレルキャリア、リカレント教育、ジェロントロジー等々学びの多様化、一方制度面も完全リモート、出向制度、二重就労許可等々、急速に変化しています。また人生100年、仕事人生80年が注目され、年金だけでは足りないという現代社会において、ライフシフトの重要性はさらに高まり、何を学びどう生き抜くのか。

働きがい、生きがいの再構築が必要であり、学び続けることの重要性に気づいた方に対して、これまでの産官学のネットワークと波乱万丈の希少な経験からの唯一無二の授業を展開していきます。皆さんとダイアローグできるのを楽しみにしています。

担当科目 ▶ 経営者の志と実践知／企業理念経営／日本の製薬企業の未来 他

佐々木 弘明
SASAKI Hiroaki

Profile　神戸大学大学院経営学部経営学研究科修了。北海道拓殖銀行の破綻経験、藤沢薬品の合併経験、アステラス製薬（総合教育研究所）の「明日は変えられる」プロジェクト、コーチングアワード受賞（2010年）、田辺三菱製薬のキャリア形成支援厚生労働大臣賞受賞（2014年）経験あり。経験を理論に、理論を実践にがモットー、個人・組織・社会の三方良しが教育方針。神戸大学名誉教授金井壽宏氏に師事し、コミットメント、モチベーション・キャリアが専門分野。

今泉 忠
IMAIZUMI Tadashi

Profile　立教大学社会学部産業関係学科卒。立教大学大学院社会学研究科応用社会学専攻博士前期課程修了（社会学修士）。東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻博士後期課程単位取得満期退学。青山学院大学理工学部経営工学科助手を経て、多摩大学助教授・大学院助教授。1995年多摩大学教授・大学院教授。多摩大学経営情報学部学部長（2001年から2006年）を経て現職。日本分類学会会計監事。

ビジネスの問題解決にデータを活かせるビジネスパーソンへ

それは、データをもとにして、ビジネスの「なぜ?」に答え、みんなを「どうしてか」を説得し、「なるほど」と納得させて課題や問題を実践的に解決することができる力です。

ビッグデータ業務は垣根なく出現し、その結果ビジネスや社会をよりよくするために、ビッグデータをもとに考え意思決定を行うことは必然となりました。

ビジネスでの課題解決・問題解決において、デジタルビッグデータを利活用することは当然になりましたが、ビジネスの現場での課題解決や問題解決には結びつかないことがあります。それは、ビジネス現場で何が問題になっているかという「ビジネスの理解」、「データの背景理解」ができる力が重要だからです。

データドリブン経営フィールドでは、ビジネス現場に携わるすべてのビジネスパーソンにこそ、ツールを活用しながら「データの背景理解」ができる力をもとにしたデータサイエンス力を修得し、現場での課題解決のために解決策を提案して実施できるITプロジェクトマネジャー・デジタルマーケター・データエンジニア・データサイエンティストなどになってほしいと考えています。

担当科目 ▶ データ活用入門／集中ゼミ（統計検定）／論文演習 他

社会課題を市場化するのはルール形成戦略力である

これからのグローバル経営では、社会課題解決力をビジネスモデルに組み込み、自社の成長に比例して社会課題解決力を高めていくことが不可欠です。また、地政学リスクの高まりを受けて通商政策や安全保障経済政策に対して企業はこれまでとは比較にならない次元で能動的な関与、戦略的な対応をしていかなければなりません。

ルール形成戦略は社会課題解決力に秀でた製品・サービスの開発、バリューチェーンを構築し、それが必要とされる秩序を創り出すダイナミックな戦略です。実行フェーズでは政府、国際機関、NGO、政策シンクタンク等と連携して新たなルールを政策という形で具体的にデザインし、新たなエコシステムへと産業を革新していく複雑な利害関係者のマネジメント力が必要となります。

ルール形成戦略はルールに落とし込む力がなければ単なる評論家です。世界各国の政策決定プロセスの理解はもちろん、ルール形成に影響力を有する組織や個人との繋がりを地道に築き上げていくことが必要となります。構想から実行まで一貫したスキルを築き上げるために、座学で理論を体得し、フィールドワークで実行力が得られるカリキュラムとなっております。

担当科目 ▶ 社会課題起点のルール形成戦略／論文演習

國分 俊史
KOKUBUN Toshifumi

Profile　多摩大学大学院 教授　ルール形成戦略研究所所長、EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社　Strategic Impact Unit リードパートナー、パシフィックフォーラム シニアフェロー、早稲田大学大学院公共経営研究科修了。IT企業の経営企画、シンクタンク、A.T. カーニー プリンシパルなどを経て現職。社会課題および経済安全保障政策を起点としたルール形成戦略の第一人者として通商政策の立案や政・産・官・学によるイシューエコシステム作り、各国の安全保障経済政策に翻弄されない企業戦略の立案を支援。また、経済安全保障政策に関する政府の委員や政務調査会、議員連盟のアドバイザーを多数歴任。ルール形成戦略研究所の創設者として世界各国の政府高官、インテリジェンス機関、シンクタンクとのネットワーク構築による日本のルール形成戦略力の多元化、減少傾向にある日本の安全保障政策の研究者の育成にまで取り組んでいる。著主に、「世界市場で勝つルールメイキング戦略　技術で勝る日本企業がなぜ負けるのか」（朝日新聞出版）、「経営戦略と経済安保リスク」（日本経済新聞出版）など多数。

教員紹介

金 美徳 教授
KIM Mitoku

担当科目	世界潮流と企業戦略　他

【学歴】1962年兵庫県生まれ。早稲田大学大学院国際経営学修士・国際関係学博士課程修了。【経歴】(株)三井物産戦略研究所、三井グループ韓国グローバル経営戦略研究委員会委員を経て、多摩大学 経営情報学部教授・同大学院経営情報学研究科教授。専門は国際経営学・国際関係学、研究領域は企業戦略・グローバル組織人事・アジア経済。【主な著書・論文】『キャンパスアジア共通教科書:これからの日中韓経済学』など著書・論文・論考100本、三井物産向け戦略レポート100本、講演100件など。

堀内 勉 特任教授
HORIUCHI Tsutomu

担当科目	非営利法人のファイナンス

【学歴】多摩大学社会的投資研究所教授・副所長。東京大学法学部卒業、ハーバード大学法律大学院修了、Institute for Strategic Leadership (ISL) 修了、東京大学Executive Management Program (EMP) 修了。【経歴】日本興業銀行、ゴールドマンサックス証券、森ビル・インベストメント マネジメント社長を経て、2015年迄森ビル取締役専務執行役員CFO。100年企業戦略研究所所長、田村学園理事・評議員、麻布学園評議員、社会的投資推進財団評議員、日本CFO協会主任研究委員 他。【主な著書・論文】「読書大全 世界のビジネスリーダーが読んでいる経済・哲学・歴史・科学200冊」(日経BP)がある。

真野 俊樹 特任教授
MANO Toshiki

担当科目	医療・介護経営Ⅰ・Ⅱ 他

【学歴】1987年名古屋大学医学部卒業。医師、医学博士、経済学博士、総合内科専門医、MBA。【経歴】臨床医、製薬企業のマネジメント、大和総研主任研究員などを経て、多摩大学大学院特任教授。中央大学大学院教授、厚生労働省独立行政法人評価有識者委員などを兼務。医療・介護業界にマネジメントやイノベーションの視点で改革を考えている。【主な著書・論文】「はじめての医療経営論」2020年12月16日(有斐閣)／「医療マーケティング第三版」2019年7月18日(日本評論社)／「医療危機ー高齢社会とイノベーション」2017年8月18日(中公新書)／「比較医療政策」2013年3月1日(ミネルバ書房)

石井 富美 客員教授
ISHII Fumi

担当科目	地域包括ケアのビジネスモデル

【学歴】東京理科大学理学部卒、多摩大学大学院経営情報学専攻修了(MBA)。【経歴】民間企業でソフトウエア開発のSEとして勤務した後に医療介護分野に転身し、電子カルテの導入や新規事業企画、病院経営管理等を行った。現在は医療介護事業の経営サポート、経営人材育成活動を行いながら、関西学院大学大学院「地域医療経営」の担当講師、複数の都市のまちづくり事業のアドバイザーなども務めている。【主な著書・論文】(書籍)「経営企画部門のマネジメント」「医療・介護制度改革へ向けた病院経営戦略」など多数／(論文)「経営改善のための情報提供と新規事業プロジェクトへのアプローチ」(医療情報学会)など多数。

橋本 大也 客員教授
HASHIMOTO Daiya

担当科目	先端ITマーケティングイノベーション

【経歴】起業家としてビッグデータの分析ソリューションのデータセクション株式会社を創業し15年目に東証マザーズに上場させた。ITイノベーションの創造と実践を研究。デジタルハリウッド大学教授・図書館長。早稲田情報技術研究所取締役。【主な著書・論文】著書に『データサイエンティスト』『情報力』『Web時代の羅針盤 213冊』『ブックビジネス2.0』『新・データベースメディア戦略』などがある。

藤本 江里子 客員教授
FUJIMOTO Eriko

担当科目	中小企業の価値創造と事業承継

【学歴】立命館大学文学部卒業、立命館大学大学院にて法学修士を取得。【経歴】税理士・中小企業診断士・(独)中小機構関東本部中小企業大学校東京校企業研修課中小企業アドバイザー(人材支援)・FBAAファミリービジネスアドバイザー資格保有。都市銀行、会計事務所、コンサルティング会社を経て、現在は中小企業経営者のあらゆる悩みに応えるためのコンサルティングを行う。得意分野は、事業承継、組織再編成、M&A、公益法人等の会計・税務など。【主な著書・論文】『合同会社の設立・登記・運営がまるごとわかる本』日本法令、2019.(税務監修)／『実践ガイド企業組織再編成税制』清文社、2017.(共著)

金野 索一 特任教授
KONNO Sakuichi

担当科目	SDGs(社会課題)× Tech ビジネス 他

【学歴】コロンビア大学国際公共政策大学院修士課程修了。【経歴】上智大学・明治大学兼任教員、日本政策学校学長、ForbesJapanオフィシャルコラムニスト、(株)ガイアテック代表取締役、一般社団法人ピーステックファウンデーション代表理事。過去に(株)大前アンドアソシエイツ・パートナー、(株)ビジネスブレークスルー取締役等を歴任。【主な著書・論文】主な著書『未来の選択』(ディスカヴァー 21社)、『ネットビジネス勝者の条件』(ダイヤモンド社)他。主な連載『トライセクターリーダーの時代』(日経ビジネス・カンパネラ)、『出てよ! Peace Tech イノベーター』(日経ITプロ)、『テックで資本主義をアップデートする』(Forbes Japan)他

久保田 貴文 准教授
KUBOTA Takafumi

担当科目	統計的データ分析 他

【学歴】岡山大学環境理工学部卒。同大学大学院自然科学研究科修了。平成24年に同大学大学院環境学研究科において博士(学術)を取得。【経歴】岡山大学法学部(同大学大学院社会文化科学研究科)助手・助教。統計数理研究所リスク解析戦略研究センター特任助教。平成26年より多摩大学経営情報学部准教授。日本計算機統計学会評議員。日本分類学会評議員、幹事。大いなる多摩学会副幹事長。

長島 剛 教授
NAGASHIMA Tsuyoshi

担当科目	まちづくり最新事情

【学歴】法政大学大学院社会学研究科修了。【経歴】多摩中央信用金庫(現多摩信用金庫)入庫。価値創造事業部部長、地域連携支援部長、融資部部長。2010年多摩市・多摩信用金庫・多摩大学の三者による「多摩市創業支援事業連携協定」締結をはじめ、多摩地域の市町村や大学・高専等との地域連携の責任者。公益社団法人日本フィランソロピー協会理事。多摩CBネットワーク世話人。Facebookグループ「多摩エリアにいこう」管理人。2018年より、多摩大学総合研究所客員教授、2019年より多摩大学教授(多摩信用金庫より出向)。

浜田 正幸 教授
HAMADA Masayuki

担当科目	実践組織変革

【経歴】多摩大学大学院・多摩大学経営情報学部教授。早稲田大学大学院で心理学を研究の後、(株)本田技術研究所で自動車レースの最高峰F1プロジェクト参画、(株)野村総合研究所にて人事・組織系の経営コンサルタント。その後ベンチャー企業を数社創業・立上げ。2006年より現職。現役経営コンサルタント。最近は人間心理や脳科学に基づいたOD(組織開発)コンサルティングを多数手掛ける。「日本の『働く』をおもしろくする」をミッションとして、研究と実践に精進。

伊藤 祐輔 客員教授
ITO Yuusuke

担当科目	ファイナンスイノベーション実践

【学歴】早稲田大学理工学部数学科卒業、同大学大学院理工学研究科後期課程修了。【経歴】偏微分方程式論の研究活動のかたわら数学教育を続け、89年ソロモン・ブラザーズ・アジア証券(現シティグループ証券)に入社。株式部長、株式デリバティブトレーダーとして10年間マーケットにかかわる。99年インドスエズ・ダブリュ・アイ・カー証券(現クレディ・アグリコル証券会社)に移りトレーディングデスクの再構築を行い、2000年シンプレクス・インスティテュート代表取締役就任。【主な著書・論文】『キャッシュフローでわかる 入門　金融工学』(監修)など。

井村 順子 客員教授
IMURA Junko

担当科目	企業会計・簿記入門

【学歴】横浜国立大学経済学部卒業。【経歴】公認会計士。大手監査法人の監査部門のシニアパートナーとして、長年にわたって上場企業等の監査業務に従事した経験に加えて、上場支援業務にも多数従事した。現在は社外役員、大学講師及び企業のアドバイザー等として活躍中である。

本荘 修二 客員教授
HONJO Shuji

担当科目	起業／社内起業の事業創造実践論

【学歴】東京大学工学部卒業、ペンシルベニア大学経営学修士、早稲田大学博士(学術:国際経営)。【経歴】ボストン・コンサルティング・グループ、CSK/セガ・グループ大川会長付などを経て、現在、本荘事務所 代表(経営コンサルタント)構造計画研究所社外取締役。厚生労働省・医療系ベンチャー振興推進会議座長、IPA未踏アドバンスト事業審査委員、新事業を中心に日米の企業アドバイザーなどを務める。【主な著書・論文】単著「大企業のウェブはなぜつまらないのか」「IT情報の虚と実」、共著「成長を創造する経営ーシスコシステムズ・爆発的成長力の秘密」「日本的経営を忘れた日本企業へー 9万人のベンチャー企業。ヒューレット・パッカード」等。監訳「ザッポス伝説」「ザッポス伝説2.0」「奇跡の会社」

中野 未知子 客員教授
NAKANO Michiko

担当科目	サービスサイエンス

【学歴】立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科専攻博士前期課程修了。【経歴】上智大学 グローバル教育センター 非常勤講師。(株)One Vision ファシリテーター。2000年よりトランスコスモス(株)で金融、メーカー、通信等のカスタマーケア領域において、コンタクトセンターの立上げ業務を経た後、オペレーションフローやカスタマーコミュニケーションの分析と改善に従事した。現在はビジネスピープルを対象とした各種スキル研修プログラムの設計、登壇や、AI・機械学習活用における課題設定ワークショップのファシリテーターを務める。

真壁 昭夫 客員教授
MAKABE Akio

担当科目	行動経済学 他

【学歴】一橋大学商学部卒業、ロンドン大学経営学部大学院卒業。【経歴】第一勧業銀行(現みずほ銀行)入行、メリル・リンチ社ニューヨーク本社出向。みずほ総研主席研究員、信州大学経済学部教授などを経て、2017年4月より法政大学大学院政策創造研究科教授。【主な著書・論文】著書は「下流にならない生き方」「行動ファイナンスの実践」「はじめての金融工学」など多数。

柯 隆 客員教授
KE Long

担当科目	日中企業比較論

【学歴】愛知大学法経学部入学。1992年、同大卒業。1994年、名古屋大学大学院修士課程修了(経済学修士号取得)。【経歴】長銀総合研究所国際調査部研究員(1998年まで)。1998年より富士通総研経済研究所主任研究員、2006年より主席研究員、2018年より東京財団政策研究所主席研究員。【主な著書・論文】著書に「中国の不良債権問題」(日本経済新聞出版社、2007年)、「中国『強国復権』の条件　「一帯一路」の大望とリスク」(慶応義塾大学出版会、2018年、第13回樫山純三賞受賞)ほか多数。

柿内 幸夫 客員教授
KAKIUCHI Yukio

担当科目	日本のモノづくり経営

【学歴】東京工業大学工学部経営工学科卒、スタンフォード大学修士課程修了、慶応大学博士課程修了。【経歴】日産自動車(株)に入社。国内外の工場における生産性向上業務を歴任。【主な著書・論文】著書『KZ法工場改善』『現場改善』など。日本経営工学会経営システム賞受賞。工学博士、技術士(経営工学)。経済産業省先進技術マイスター(平成29年度)。

角井 亮一 客員教授
KAKUI Ryoichi

担当科目	最新ロジスティクス戦略

【学歴】上智大学経済学部経済学科(田中利見ゼミ)を3年で単位取得終了し、渡米。米国ゴールデンゲート大学からマーケティング専攻でMBA取得。【経歴】船井総合研究所に入社。その後、家業の物流会社、光輝グループに入社。2000年2月14日、国内トップクラスの通販専門物流代行会社の株式会社イー・ロジット創業。2021年3月東証ジャスダックに上場。また、タイでは、国内400店舗を有するSHIPPOPなど設立。テレビ、ラジオなどのコメンテーター多数。【主な著書・論文】著書は日米中韓台で34冊。「日経文庫 物流がわかる」「すごい物流戦略」(PHP新書)「物流改善の進め方」(かんき出版)

柏木 吉基 客員教授
KASHIWAGI Yoshiki

担当科目	クリティカルシンキング

【学歴】慶應義塾理工学部卒、米国Emory University MBA(Academic award)。【経歴】日立製作所、日産自動車を経てデータ&ストーリーLLC代表。企業の課題解決や変革を実務経験者コンサルとしてサポート。日産では海外部門、組織開発部ビジネス改革チームマネージャ等を歴任。グローバル組織の中で、社内変革プロジェクトをリードし、経営課題の解決、新規事業の提案等、数多くの実績を持つ。【主な著書・論文】ビジネス誌連載、ビジネス書著者でもある。

荻野 淳也 客員教授
OGINO Junya

担当科目	オーセンティックリーダーシップ

【経歴】外資系コンサルティング会社を経て、複数のベンチャー企業での取締役など、20年以上の企業経営、組織マネジメントの経験を踏まえ、リーダーシップ開発、組織開発の分野で、コンサルティング、トレーニング、エグゼクティブコーチングに従事している。【主な著書・論文】著書:「マインドフルネスが最高の人材とチームをつくる」(かんき出版)、「世界のトップエリートが実践する集中力の鍛え方(共著:日本能率協会マネジメントセンター)」、監訳:「サーチ・インサイド・ユアセルフ 」(チャディ・メン・タン:英治出版)、「マインドフル・リーダー 」(マイケル・キャロル :ソフトバンクパブリッシング)など。

山本 伸 客員教授
YAMAMOTO Shin

担当科目	ヘルスケアビジネスイノベーション

【学歴】名古屋大学大学院修了(博士:工学)。【経歴】シミックホールディングス株式会社Business Design Officer。外資系メーカーでの医療機器開発・薬事経験、病院組織での人財開発経験と、世界標準のデザイン思考を融合した異業種共創型イノベーションの実践家。シミックではグループ横断的・社内外を繋ぐ新事業開発とイノベーティブ人財開拓に従事。一般社団法人ビジネスモデルイノベーション協会理事。【主な著書・論文】イノベーションの迷路(ハイス・ファン・ウルフェン著、三宅泰世・山本伸監修)

片岡 裕司 客員教授
KATAOKA Yuji

担当科目	キャリアマネジメントとモチベーション

【学歴】多摩大学大学院にてMBA取得。【経歴】アサヒビール株式会社、同社関連会社でのコンサルティング部門を経て独立。現在は、(株)ジェイフィール取締役、(株)f&kプラクティス代表取締役。人事・人材開発領域を中心とし、組織開発プロジェクトやマネージャー向けのトレーニングをコアに、特に現在はキャリア開発力強化を軸とした組織風土改革に取り組む。【主な著書・論文】著書に『何とかしたい「ベテラン社員」がイキイキ動き出すマネジメント』『週イチ・30分の習慣でよみがえる職場』(共に日本経済新聞出版)

新村 和大 客員教授
SHIMMURA Kazuhiro

担当科目	ベンチャー CFO養成講座

【学歴】京都大学経済学部卒業、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修了(MBA)。【経歴】一般社団法人スタートアップ・リーダーシップ・プログラム・ジャパン 代表理事。様々な業界のベンチャー企業を経営し、3度のExitを経験。創業期の戦略、財務、組織構築を強みとする。現在、株式会社No.1(東証JASDAQ/3562)社外取締役、株式会社コードタクト取締役 最高財務責任者 兼 最高戦略責任者などを兼任し、京都大学、東京理科大学でも講義を担当。令和元年、内閣府 紺綬褒章を受章。【主な著書・論文】『ベンチャーファイナンスの思考と技術』(一般社団法人日本CFO協会 機関誌『CFO Forum』)

矢萩 邦彦 客員教授
YAHAGI Kunihiko

担当科目	実践リベラルアーツ論

【経歴】1995年より教育・アート・ジャーナリズムの現場でパラレルキャリア×プレイングマネージャとしてのキャリアを積み、1つの専門分野では得にくい視点と技術の越境統合を探究するアルスコンビネーター。2万人を超える直接指導経験と多様な企業へのコンサルティング経験を活かし「すべての学習に教養と哲学を」をコンセプトに学校・民間を問わず多様な現場で授業・講演・研修・監修顧問などを展開、企業や学校と連携し、これからの時代を豊かに生きるための「リベラルアーツ」と「日常と非日常の再編集」をテーマに住まい・学校職場環境・サードプレイス・旅のトータルデザインに取り組んでいる。

教員紹介

栗山 実 客員教授
KURIYAMA Minoru

担当科目：データドリブンの戦略構築

【学歴】東京大学理学部物理学科卒業、同大学院修了、修士（理学）。【経歴】マッキンゼー・アンド・カンパニーでの戦略コンサルティング業務従事等を経て独立、株式会社アンテカニス（個人事務所）代表。「経営戦略」×「データサイエンス」×「イノベーション」×「リーダー育成」を専門領域とし、データ技術を前提とした戦略策定やイノベーション創出を支援。イノベーション・HR・ヘルスケア・物流など各分野で、データ技術を基軸とするスタートアップ各社で創業期からレイターステージまで、共同創業者・取締役・データサイエンス統括等を歴任。2015年より多摩大学大学院客員教授・グロービス経営大学院教員。

小林 立明 客員教授
KOBAYASHI Tatsuaki

担当科目：ソーシャル・ファイナンス

【学歴】東京大学教養学部卒業、ペンシルヴァニア大学NPO指導者育成修士課程修了。【経歴】国際交流基金、日本財団、ジョンズ・ホプキンス大学客員研究員、学習院大学国際センター准教授等を経て現職。多摩大学社会的投資研究所主任研究員を兼任。専門領域は、戦略的グラント・メイキング、社会的インパクト評価、ソーシャル・ファイナンス、NPOマネジメント等。内閣府成果連動型資金提供事業専門委員、地球環境基金評価専門委員等を務めている。【主な著書・論文】主要著書に、「フィランソロピーのニューフロンティア」（翻訳）、「英国チャリティ：その変容と日本への示唆」（共著）、「入門ソーシャル・セクター」（共著）等。

近藤 洋介 客員教授
KONDO Yosuke

担当科目：21世紀の日本の社会課題

【学歴】1988年慶應大学法学部卒。【経歴】日本経済新聞社入社。経済記者として、製造業、経産省、日銀（金融）、農水省など担当し、経済の第一線を取材。2003年衆議院議員に初当選、3期連続当選。経済産業副大臣、政務官、内閣委員会筆頭理事などを歴任、産業・エネルギー分野などの制度改革に取り組む。現在：新時代戦略研究所代表、国際大学客員研究員。

齋藤 春光 客員教授
SAITO Harumitsu

担当科目：論文実践Ⅰ・Ⅱ

【学歴】武蔵大学経済学部経済学科卒業（1980年3月）、多摩大学大学院経営情報学研究科修士課程卒業（2015年9月）【経歴】パイオニア株式会社 元 取締役兼常務執行役員 経営戦略部 部長。長年にわたり、カーエレクトロニクス　アフターマーケット事業にて営業、プロモーション、マーケティング、商品企画、事業統括に従事。その後中国上海市にある合弁会社の総経理として経営を行う。帰国後経営管理、経営戦略を担当し、経営に携わる。【主な著書・論文】日本の電器産業再生のシナリオ（多摩大学大学院修士論文）。

迫川 史康 客員教授
SAKOGAWA Fumiyasu

担当科目：ケーススタディ 組織を動かす 変革型リーダーシップ論

【学歴】関西学院大学経営戦略研究科（MBA）修了。【経歴】外資系製薬会社アストラゼネカ株式会社の営業（MR）としてキャリアをスタートし、同社人財開発マネージャーを経て現在、HRBC株式会社代表取締役。企業内研修においてリーダーシップ開発、組織開発、組織風土改革などの実績多数。日本を代表する大手企業から中堅・中小企業まで幅広くヒト・組織に関する事例研究を行っている。

佐藤 洋行 客員教授
SATO Hiroyuki

担当科目：マーケティング実践

【学歴】九州大学大学院修了（農学博士）。【経歴】2008 年ブレインパッドに入社し、多くのクライアント企業でのデータ分析プロジェクトにプロジェクトマネージャーおよびデータサイエンティストとして携わる。Qubitalデータサイエンス取締役、多摩大学准教授などを経て、現在電通クロスブレイン取締役。ダイレクトマーケティング、R&D、テキストマイニングなど幅広い分野でのデータ分析に精通している。【主な著書・論文】著書に「データサイエンティスト養成読本（共著、技術評論社）」、「AI時代の意思決定とデータサイエンス（単著、多摩大学出版会）」がある。

佐野 扶美枝 客員教授
SANO Fumie

担当科目：商品ブランドマネジメント

【学歴】筑波大学大学院医科学研究科修了。【経歴】花王入社後研究部門、商品開発部門を経て、事業部門で25年以上、主に化粧品のブランド育成を担当。スキンケア、メイクアップ商品など多くのブランドを発売、育成。花王退社後、乳業メーカーを経て、現在は亀田製菓（株）マーケティング戦略部長。

徐 向東 客員教授
XU Xiangdong

担当科目：日本企業の中国ビジネス

【学歴】北京外国語大学在学中に修士号取得、立教大学在学中に博士号取得。【経歴】CM-RC.com（株）中国市場戦略研究所代表。北京外国語大学専任講師を経て文部省奨学金で来日し博士号取得。中央大学、専修大学・講師、日経リサーチ首席研究員、上海事務所総監、キャストコンサルティング（株）代表取締役、ジェトロのコーディネート、日本政府観光局国際観光振興機構中国市場アドバイザーなどを歴任。【主な著書・論文】主な著書は『中国人にネットで売る』（東洋経済新報社2011）、『中国人に売る時代!巨大市場開拓の成功法則』（日本経済新聞出版社2009）等。

白井 雅弓 客員教授
SHIRAI Ayumi

担当科目：異業種間のコミュニケーション術

【学歴】東京医科大学医学部医学科卒。東京大学大学院医学研究科内科学専攻（医学博士）。HEC Paris MBA取得。【経歴】日本内科学総合内科専門医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析学会専門医、日本医師会認定産業医認定。【主な著書・論文】Angiotensin II Dose-dependently stimulates Human Renal Proximal Tubule Transport by the Nitric Oxide Guanosine 3’,5’-cyclic Monophosphate Pathway（JASN vol. 25 no. 7, July 2014）

佐藤 勝彦 特任教授
SATO Katsuhiko

担当科目：ビジネス実践知探究　他

【学歴】横浜市立大学商学部卒。【経歴】69年日産自動車入社。以降人事部門を中心に経験を積む。イリノイ大学院留学後、米国製造会社、米国設計開発会社の設立に参画。本社人事部次長を経て95年フォードジャパンに転じ、管理本部長、社長、会長を歴任。現在コンサルタント会社代表、フライシュマンヒラードジャパンSVPなど。

鈴木 至 客員教授
SUZUKI Itaru

担当科目：DX変革：AI/Watsonに学ぶ知のデジタル化の実践知

【学歴】慶應義塾大学経済学部卒業。【経歴】専門はインフォメーションマネジメント分野、特に構造・非構造データの活用に向けたアーキテクチャ策定とデータガバナンスの運用モデルの構築手法。日本IBMのコンサルティング・グループにおいて、IBM Watson TM を中心としたコグニティブ技術、ビッグデータ関連のコンピテンシーリーダーとして、先進的なテクノロジーを活用したプロジェクト、および産学連携によるプロジェクトの推進と、社内外の人材育成に従事。

須東 朋広 客員教授
SUDO Tomohiro

担当科目：組織行動とリーダーシップ

【学歴】法政大学大学院政策創造学科博士後期課程満期退学。【経歴】これからの企業人事責任者の在り方を研究する機関の立ち上げ、事務局長を経て、雇用キャリア政策を提言する研究所を立ち上げ・従事する。現在は社団法人を立ち上げ組織におけるサイレントマイノリティの活かし方・活躍に向けた提言活動を行っている。

田中 勇一 客員教授
TANAKA Yuichi

担当科目：ソーシャルビジネス演習

【学歴】京都大学理学部数学科卒。米国カーネギーメロン大学にてMBA 取得。【経歴】住友銀行（現三井住友銀行）に入行。留学や起業支援を経て、新銀行東京設立プロジェクトに草創期より参画し、人事部門の責任者として銀行立ち上げに大きく貢献。現在は、リソウル（株）を設立し、転職・副業・起業などのキャリア支援や採用コンサルティングに取り組む。2010年4月に「社会起業大学」を設立。2020年9月には「キャリアチェンジサロン」を立ち上げ、新時代における生き方働き方の創造に取り組んでいる。【主な著書・論文】主な著書に「やりたいことはよくわかりませんが、私の適職教えて下さい!」（徳間書店）がある。

高田 貴久 客員教授
TAKADA Takahisa

担当科目：ビジネスリーダーのための実践的課題解決

【学歴】東京大学 理科Ⅰ類 中退、京都大学 法学部 卒業、シンガポール国立大学（NUS）Asia Pacific Executive MBAコース 卒業【経歴】アーサー・D・リトル（ジャパン）プロジェクトリーダー、マブチモーター株式会社　社長付　兼　経営企画部付・事業基盤改革推進本部　本部長補佐、ボストン・コンサルティング・グループを経て、プレセナ・ストラテジック・パートナーズ設立。【主な著書・論文】著書に25版増刷のベストセラー「ロジカル・プレゼンテーション」（英治出版）、「問題解決」（2013年 英治出版）

瀧川 浩人 特別講師
TAKIKAWA Hiroto

担当科目：留学生のためのビジネス日本地理・日本史Ⅰ・Ⅱ

【学歴】國學院大學文学部卒業。専門は、神道史学。【経歴】代々木ゼミナール入職。進路アドバイザーとして、首都圏高等学校で入試情報分析をもとに講演活動を展開。1994年より、代々木ゼミナール社会科講師を兼務。多数の受験生を難関校合格へ導く一助を担う傍ら、日本レクリエーション協会公認インストラクターとして、学校教育のレクリエーション指導、旅行会社の新人教育研修を担当。2004年に多摩大学入職。グローバルスタディーズ学部（湘南キャンパス）設置準備に関わり、新設学部立ち上げに従事。現職は、多摩大学大学院事務課長兼経営情報学研究科特別講師。

諏訪 良武 客員教授
SUWA Yoshitake

担当科目：サービスイノベーション

【経歴】オムロンの情報化センター長としてIT変革を指揮。その後、保守サービス会社のサービス変革を実践。これらの企業変革の実践を基に、役立つサービスサイエンスを提唱している。現役のコンサルとして、大企業から中小企業のサービス変革を支援しており、生々しい現場知識を活用したワークショップで授業を進めている。【主な著書・論文】著書「顧客はサービスを買っている」ダイヤモンド社、「いちばんシンプルな問題解決の方法」ダイヤモンド社、「サービスサイエンスによる顧客共創型ITビジネス」翔泳社、「サービスの価値を高めて豊かになる」リックテレコム社、「お客様の心をつかむ心理ロイヤルティマーケティング」翔泳社。

土屋 有 客員教授
TSUCHIYA Yuu

担当科目：Webマーケティング戦略

【学歴】多摩大学大学院経営情報学研究科 修士課程修了。【経歴】国立大学法人宮崎大学 准教授。土屋有事務所代表。アイレップ取締役、面白法人カヤック事業部長、アラタナ（現 ZOZO,ZOZOテクノロジー）取締役、カヤックLiving（現 カヤック）代表取締役など数社の役員を歴任。2015年より現職。Community Nurse Company取締役をはじめ社会・地域課題解決型企業の経営に携わる。【主な著書・論文】「新型コロナウイルス感染拡大による宮崎県観光客の心理・行動変容 ―Yahoo! JAPAN「DS.INSIGHT」による分析―」土屋有 宮崎大学地域資源創成学部紀要 2021年3月

德永 朗 客員教授
TOKUNAGA Akira

担当科目：B to Bマーケティング

【学歴】東京大学教養学部教養学科卒業、早稲田大学ビジネススクール修了。【経歴】㈱電通および㈱博報堂で、企業・事業の課題解決に資するコミュニケーションやブランディングに関わる研究と実務に従事。顧客や社会にとっての事業の価値を捉えた戦略・施策立案に携わってきた。現在も、企業のデジタル事業変革やCSV経営に即応するマーケティングの研究に取り組む。東京成徳大学経営学部教授、立教大学現代心理学部兼任講師。

宮城 治男 客員教授
MIYAGI Haruo

担当科目：実践を通して学ぶソーシャルビジネス

【経歴】早稲田大学在学中の93年、ETIC.を創業。若い世代が自ら社会に働きかけ、仕事を生み出していく起業家型リーダーの育成に取り組む。2001年より「社会起業家」の育成にフォーカスし、ETIC.ソーシャルベンチャーセンターを設立。日本初の社会起業ビジネスプランコンテストSTYLE、社会起業塾イニシアティブ等を手がける。これまで1600名以上の起業家の創業を支援。04年からは、地域における人材育成支援のチャレンジ・コミュニティ・プロジェクトを開始。現在全国60地域に広がる。11年から震災復興支援に注力し、「右腕プログラム」では東北の100を越えるプロジェクトリーダーのもとに215名のスタッフを送り込む。2011年、世界経済フォーラム ヤング・グローバル・リーダーズに選出。文部科学省参与、中央教育審議会臨時委員、内閣官房まち・ひと・しごと創生会議構成員等を歴任。

中岡 英隆 客員教授
NAKAOKA Hidetaka

担当科目：M&A戦略と実践企業ファイナンス

【学歴】東京大学理学部物理学科卒業、筑波大学博士（経営学）。【経歴】首都大学東京戦略研究センター教授（兼）大学院社会科学研究科教授を経て、多摩大学大学院客員教授。伊藤忠商事にて、エネルギー開発部長、伊藤忠石油開発取締役、Ras Laffan LNG社取締役、日本サハリンパイプライン調査企画取締役、原燃輸送取締役、カタール・ジョイント・ファイナンス代表取締役社長などを歴任、元伊藤忠石油開発CIO・CCO。【主な著書・論文】『リアルオプションと投資戦略』（共著）朝倉書店2008年／「マネジメントの価値創造力とM&Aの評価」『ジャフィー・ジャーナル：バリュエーション』朝倉書店2011年、他

中山 こずゑ 客員教授
NAKAYAMA Kozue

担当科目：観光インバウンドマネジメント

【学歴】慶應義塾大学大学院社会学科修士課程修了　INSEAD 社会人MBAコース修了。【経歴】日産自動車（株）に入社。企画統括部長を経て、グローバルブランド副本部長。電気自動車リーフのネーミングをまとめる。横浜市長からの強い要望で横浜市文化観光局長就任。就任前比で観光実人員及び消費額を約2倍とする。2018年より（株）横浜国際平和会議場CEO就任。現職は（株）帝国ホテル社外監査役、（株）いすゞ自動車・（株）TDKの社外取締役他。地方活性化・次世代育成をライフワークとしてコンサルティング等も活動中。【主な著書・論文】地方創生を成功させる5つの法則・会社を辞めたくなった時に読む本他

中分 毅 客員教授
NAKAWAKE Takeshi

担当科目：プロジェクト・マネジメントの基本と応用

【学歴】京都大学工学部卒、筑波大学大学院修了。【経歴】世界でTOP5に入る日建設計にて、日本国内、中東、ロシア、東アジアでの都市開発や建築プロジェクトの企画、プロジェクト・マネジメント、マーケティングに従事。2015年～ 2018年同社代表取締役副社長。現在同社フェロー及び中国華東建築設計研究院総院特別研究員を兼務。日本の得意分野であるTOD（Transit Oriented Development鉄道志向の都市開発）の海外展開に注力している。【主な著書・論文】駅まち一体開発～公共交通指向型まちづくりの次なる展開（編著、新建築2013）、土地は誰のものか（白揚社、分担執筆、2019）

西田 邦生 客員教授
NISHIDA Kunio

担当科目：日本の流通構造とSCMのメガトレンド

【学歴】早稲田大学政治経済学部卒。【経歴】国分（株）で経営統括室部長、取締役グループ企業統括本部長、廣屋国分（株）代表取締役社長、中国駐在を歴任。元早稲田大学アジア太平洋研究センター特別研究員。現職は（株）ジャパン・インフォレックス代表取締役社長。（社）流通問題研究協会理事を兼務。【主な著書・論文】「流通のメガトレンド考」（流通問題 VOL.53）流通問題研究協会／「欧州商品情報の新なトレンド」（流通とシステム2019.11/NO.177）流通システム開発センター

藏夛 礼佳 客員教授
KURATA Reika

担当科目：ビジネスジャパニーズⅠ・Ⅱ

【学歴】慶應義塾大学経済学部卒。【経歴】キリンホールディングス（株）入社、人事部研修、情報システム部、経理部財務担当、国際カンパニーを経て、現在フリーの翻訳、通訳をしている。

濵田 隆道 客員教授
HAMADA Takamichi

担当科目：ベンチャー企業論

【学歴】1975年東京大学経済学部卒業。【経歴】通商産業省入省。経済産業省大臣官房審議官（産業技術担当）、株式会社東京商品取引所取締役代表執行役社長などを経て、現在エス・アイ・ビー株式会社代表パートナー。【主な著書・論文】主な著作に「産業創出の地域構想」（東洋経済新報社）、「グローバル・トップをめざして」（日刊工業新聞社）、「市場と取引　上・下」（東洋経済新報社）などがある。

久恒 啓一 客員教授
HISATSUNE Keiichi

担当科目：インサイトコミュニケーション

【学歴】九州大学法学部卒。【経歴】日本航空（株）において労務・広報・経営革新に携わった後、早期退職し97年新設の宮城大学教授に就任。08年より多摩大学教授。12年より経営情報学部長。15年より多摩大学副学長を経て、現在名誉教授。【主な著書・論文】著書はベストセラーになった『図で考える人は仕事ができる』（日経）、『図解で身につく！ドラッカーの理論』（中経の文庫）など100冊を超える。2020年8月より『久恒啓一図解コミュニケーション全集』全10巻を刊行中。詳細は、図解Web:http://www.hisatune.net/ 参照。

樋渡 淳二 客員教授
HIWATASHI Junji

担当科目：夢をかなえる実践リスクマネジメント

【学歴】博士（商学）。【経歴】日本銀行を経て、現在、大東文化大学経営学部教授。個人や金融機関・企業がリスクにどう立ち向かい、夢や経営理念を実現するためにどのようなことをすればよいかについて、関心を持っている。【主な著書・論文】単著『金融機関のリスクマネジメント高度化に関する研究』大東文化大学経営研究所研究叢書32（2014年3月）／（主な論文）「少子高齢化社会における個人・社会のリスクマネジメント」『経営論集』第33号（2017年3月）大東文化大学経営学会／「人工知能のもたらすプラス・マイナス両面を踏まえた人々の生活を豊かにするための課題について」大東文化大学経営研究所2019年6月

川井 真 客員教授
KAWAI Makoto

担当科目：高齢社会のまちづくり

【経歴】デルタテックアソシエイツ株式会社 専務執行役員、シダックスグループ（シダックス株式会社）社外取締役、明治大学自動運転社会総合研究所 所長代行／地方創生部門長、明治大学サービス創新研究所 顧問、明治大学研究・知財戦略機構 客員研究員、千葉工業大学日本文化再生研究センター 上席研究員、対馬市SDGs総合研究所 客員研究員等を兼務。専門は政治哲学・文明論・公共リスクマネジメント論・死生学。現在、全国在宅医療推進協会監事、MINS治験審査委員会理事、ふるさとテレビ顧問、対馬沖洋上風力発電導入検討委員会 委員長、対馬市SDGsアドバイザリーボード 委員等も務める。

荻阪 哲雄 客員教授
OGISAKA Tetsuo

担当科目：ライフシフト:人生の成長戦略

【学歴】多摩大学大学院でビジョン実践手法を研究して、修士号取得。【経歴】警視庁、ベンチャー企業、経営研究所で勤務の後、スコラ・コンサルトの創業期に参画。パートナーを経て、独立。1万人のリーダーを支えて編み出した、新しい組織開発の独自手法BA（バインディング・アプローチ®）を体系化し2007年、（株）チェンジ・アーティストを設立。代表に就任。働く組織のカルチャー変革を支援。2016年、多摩大学 客員教授に就任「ビジョン・マネジメント論」開講。実践的な研究と教育を行っている。【主な著書・論文】著書「結束力の強化書」「リーダーの言葉が届かない10の理由」「社員参謀！」「成長が速い人遅い人」

前川 慶一 客員教授
MAEKAWA Keiichi

担当科目：経営戦略概論

【学歴】東京大学工学部卒。【経歴】日産自動車にて、パワートレーン開発・企画、人事、経営企画、商品戦略、プログラムマネジメント等を担当。2013年から2019年までマーレグループ（ドイツ資本自動車部品サプライヤ）日本事業役員、現在は日本貿易振興機構自動車業界アドバイザー等を務める。

前田 英志 客員教授
MAEDA Hideshi

担当科目：DX変革：データサイエンスによる企業変革

【学歴】東京大学大学院修了（機械工学）、一橋大学国際企業戦略科修了（MBA）。【経歴】専門は技術戦略とビジネスアナリティクス。日本IBM　戦略コンサルティンググループにて、データ戦略をリード。データサイエンティスト育成道場プログラムを開発し、小売業、製造業に展開。この取組みは、経済産業省のものづくり白書（2017）に掲載されている。過去IBMの経営企画に所属し、IBMの変革プロジェクトにも参画。IBMアカデミー・オブ・テクノロジーのメンバー。【主な著書・論文】IBMを強くした「アナリティクス」ビッグデータ31の実践例（日経BP）

吉松 敏也 客員教授
YOSHIMATSU Toshiya

担当科目：プレミアム価値創造のブランド戦略

【学歴】慶應義塾大学商学部卒。【経歴】日産自動車商品企画室を経て、アウディジャパンに設立から参画。マーケティング、戦略企画室長として、アウディブランドの日本での躍進に貢献。現在は独立して、様々な業種のブランド戦略のコンサルティングを行うほか、丸の内ブランドフォーラムのディレクターも務める。

三田 真美 客員教授
MITA Mami

担当科目：実践ポジティブ心理学

【学歴】慶應義塾大学文学部卒。同大学院政策メディア研究科修士課程修了。【経歴】外資系コンサルティング会社を経て、日経BP社などで、経営誌記者、書籍編集に携わり、起業やイノベーションから教育、女性問題まで、幅広いジャンルの書籍を企画・編集する。近年は、ポジティブ心理学や行動科学の書籍を数多く手がけ、ビジネスパーソン向けに独自のジャーナリング（筆記）ワークショップも行う。認定ポジティブ心理学プラクティショナー。

劉 麗娜 客員教授
LIU Lina

担当科目：論文スタートアップⅠ・Ⅱ

【経歴】中国の吉林省に生まれ、大学を卒業後に大手建材メーカーLIXILに就職、2013年に来日。2014年4月に多摩大学大学院に入学大学院時代から医療コーディネーター／通訳として活動、お客様（患者様）の笑顔を見て医療ツーリズムがとてもやりがいのある仕事だと感じて、修了と同時に医遊株式会社を設立。

楠田 幸久 客員教授
KUSUDA Yukihisa

担当科目：グローバル技術経営論

【学歴】関西学院大学大学院理学研究科修了（理学博士）。MBA（多摩大学）。【経歴】日本板硝子株式会社、富士ゼロックス株式会社にて新規半導体デバイス、新商品の研究開発・生産に従事してきた。現在、岡本硝子株式会社 取締役CTO。技術者および事業統括者として、両方の立場から新製品を世に送り出す業務を担当している。海外経験から、グローバル環境下での事業およびイノベーションに対して強い興味を持つ。

宮﨑 義文 客員教授
MIYAZAKI Yoshifumi

担当科目：経営視点からのコンタクトセンターの活用

【学歴】東北大学大学院 工学研究科修士卒。【経歴】日本アイ・ビー・エムにて、約20年に渡り、多くのCRM ／コンタクトセンターのプロジェクトをリード。ICT開発・ソリューション営業・コンサルティングと幅広い職務経験を活かし、どうしたら「経営に貢献するコンタクトセンター」を創ることができるかをテーマに情報処理学会コンタクトセンターフォーラム 及びサービスサイエンスフォーラムを中心に現在も研究活動を推進中、企業情報化協会CS表彰制度審査委員。【主な著書・論文】情報処理学会デジタルプラクティス 通巻45「経営視点からのコンタクトセンタ活用」通巻34「経営に貢献するコンタクトセンタを創る」

水木 さとみ 客員教授
MIZUKI Satomi

担当科目：ストレスマネジメントと精神回復力

【学歴】各種心理療法を修得し、横浜市立大学医学部口腔外科学講座、同精神医学講座、東京医科歯科大学頭頸部心身医学講座にて心理療法を実践。医学博士の学位を取得。【経歴】東京医科歯科大学頭頸部心身医学講座臨床講師を経て、心理学・行動科学・心身医学に基づく実践的な研修・講演を数多く全国的に普及。【主な著書・論文】原著:慢性疼痛を有する顎関節症患者へのストレスマネジメント（横浜医学）／総説,日本顎顔面インプラント学会誌／歯科医療コミュニケーション／心理セラピストが贈る魔法のコミュニケーション／心理カウンセラーと弁護士が説く！ 患者さんとのトラブル&ハプニング（共にクインテッセンス出版）他、多数

渡邉 泰之 客員教授
WATANABE Yasuyuki

担当科目：持続可能な地域社会創生と地域金融

【学歴】慶応義塾大学法学部法律学科卒業、同大学院修了、修士（法学）／米国コロンビア大学国際公共政策大学院修了、修士（公共政策学）【経歴】総務省から内閣官房（郵政民営化準備室・行政改革推進室）、地方公共団体（高槻市・那須塩原市副市長）出向。政策研究大学院大学准教授として、世界銀行後援のパブリック・ファイナンス・プログラム（人事管理・リーダーシップ）担当。慶応義塾大学講師（行政学）。【主な著書・論文】「日本にみる官民連携政策の特徴と推移」、『季刊行政管理研究』163号、33 ～ 46頁（2018年）／「二宮金次郎に学ぶ地方行財政改革」『地方行政』第10674号、2 ～ 6頁（2016年）

【ルール形成戦略】フィールド
日本で唯一、多摩大学大学院で学べるルール形成戦略の教授陣

甘利 明 多摩大学 ルール形成戦略研究所　シニアフェロー
AMARI Akira

【経歴】小選挙区（神奈川県第十三区）選出、自由民主党。1949年神奈川県厚木市に生まれる、慶應義塾大学法学部政治学科卒業。ソニー（株）、衆議院議員甘利正秘書を経て、1983年衆議院選挙へ立候補。通商産業政務次官、衆議院商工委員長、労働大臣、党筆頭副幹事長、衆議院予算委員長、経済産業大臣（三期）、内閣府特命担当大臣（規制改革担当）、行政改革担当大臣、公務員制度改革担当大臣、党政務調査会長等を経て、経済再生担当大臣、社会保障・税一体改革担当大臣、内閣府特命担当大臣（経済財政政策）2008月永年在職議員として衆議院より表彰される。当選12回。

藤井 敏彦 多摩大学 ルール形成戦略研究所　客員教授
FUJII Toshihiko

【経歴】内閣官房国家安全保障局 内閣審議官（担当：経済安全保障）。元経済産業省 製造産業局 審議官大臣官房主席通商政策統括調整官。独立行政法人経済産業研究所 コンサルティングフェロー（前経済産業省防衛装備庁長官官房審議官、前経済産業省通商政策局 通商政策課長、前経済産業省資源エネルギー庁 資源・燃料部長）1987年東京大学経済学部卒業1994年ワシントン大学にてMBA取得。2000年在欧日系ビジネス協議会（於ブラッセル）事務局長、対EUロビイストとして活動。帰国後、慶應義塾大学法科大学院客員講師（EU法）、埼玉大学大学院経済科学研究科客員教授等（企業と公共政策）を経て現職。日本の対EUロビイストの草分けであるとともにWTOなど世界的ルールメイクに通暁している。【主な著書・論文】『競争戦略としてのグローバルルール』（東洋経済新報社）、『ヨーロッパのCSRと日本のCSR』（日科技連出版社）、『EUのガヴァナンスと政策形成』（共著、慶應義塾大学出版会）などがある。

羽生田 慶介 客員教授
HANYUDA Keisuke

担当科目：国際通商と企業のルール形成

【経歴】多摩大学 ルール形成戦略研究所 副所長／客員教授。オウルズコンサルティンググループ代表。経済産業省（通商交渉）、キヤノン（経営企画）、A.T.カーニー、デロイトトーマツコンサルティング執行役員を経て現職。経済産業省大臣官房臨時専門アドバイザー｜エシカル協会 理事｜フェアトレード・ラベル・ジャパン 理事｜ACE 理事｜グラミン日本 顧問｜経産省「Society5.0標準化委員会」等政策検討委員。【主な著書・論文】『稼げるFTA大全』（日経BP）『最強のシナリオプランニング』（共著：東洋経済新報）『世界市場で勝つルールメイキング戦略』（共著：朝日新聞出版）他

市川 芳明 多摩大学 ルール形成戦略研究所　客員教授
ICHIKAWA Yoshiaki

【経歴】1979年東京大学工学部機械工学科卒業。日立製作所エネルギー研究所入社。ロボティクスおよびAI分野の研究に従事。その後，情報グループ環境ソリューションセンタ長、本社地球環境戦略室主管技師長、研究開発グループチーフアーキテクト室長、同グループ技術顧問、知的財産本部国際標準化推進室主管技師長を務め2020年4月退職。東京都市大学環境学部客員教授。（一社）サステナブルビジネス研究所代表理事。IEC TC111（環境規格）前議長、ACEA（環境諮問委員会）日本代表、およびISO TC268 ／ SC1（スマートコミュニティ・インフラストラクチャ）の国際議長。工学博士、技術士（情報工学）

角南 篤 多摩大学 ルール形成戦略研究所　客員教授
SUNAMI Atsushi

【経歴】笹川平和財団 理事長。Ph.D.（コロンビア大学）【専門分野】科学・産業技術政策論、公共政策論、科学技術と外交＜現在の研究対象＞国家（地域）イノベーション・システムの比較研究、科学技術と国家、科学技術外交、科学技術政策の政治分析1988年、ジョージタウン大学School of Foreign Service卒業、89年株式会社野村総合研究所政策研究部研究員、92年コロンビア大学国際関係・行政大学院Reader、93年同大学国際関係学修士、97年英サセックス大学科学政策研究所（SPRU）TAGSフェロー、2001年コロンビア大学政治学博士号（Ph.D.）取得。2001年から2003年まで独立行政法人経済産業研究所フェロー。2003年政策研究大学院大学助教授、2014年教授、学長補佐、2015年11月より内閣府参与（科学技術・イノベーション政策担当）2016年4月より副学長に就任（現在に至る）。その他、文部科学省 科学技術・学術審議会委員、外務省 科学技術外交推進会議委員、内閣府総合科学技術・イノベーション会議基本計画専門調査会委員、等。

福田 峰之 客員教授
FUKUDA Mineyuki

担当科目：議院内閣制度における公的ルール形成プロセス論

【経歴】前衆議院議員 元内閣府副大臣（IT・防災・科学技術・知財等担当）前内閣府大臣補佐官（マイナンバー担当）。自民党IT戦略特命委員会事務局長としてサイバーセキュリティ基本法や官民データ活用推進基本法の制定に尽力する。またエネルギー分野では自民党水素社会推進委員会事務局長として水素政策の推進をリードし、水素政策に世界で最も精通している政治家として様々な国際会議に招聘される。アジアで日本が果たすべき新たな役割とインフラ輸出戦略を安全保障経済政策という視点から議員連盟「米国リバランス下におけるアジア太平洋地域での日本の新たな役割に関する研究会」を設立。また、経済や政治におけるルール形成戦略の必要性を掲げ「ルール形成戦略議員連盟」を立ち上げる。

井形 彬 客員教授
IGATA Akira

担当科目：経済安全保障Ⅰ・Ⅱ

【経歴】多摩大学ルール形成戦略研究所事務局長。米国シンクタンクのパシフィック・フォーラムSenior Adjunct Fellowや、国際議員連盟の「対中政策に関する列国議会連盟（IPAC）」（IPAC）経済安全保障政策アドバイザーを兼務。その他様々な立場から日本の政府、省庁、民間企業に対して経済安全保障上のアドバイスを行う。専門分野は、エコノミック・ステイトクラフト、インフルエンス・オペレーション、インド太平洋における国際政治、日米関係。

岡田 宏記 客員教授
OKADA Hiroki

担当科目：ルール形成のためのメディア戦略

【学歴】早稲田大学政治経済学部卒業。【経歴】フジテレビジョン 報道局プロデューサー。日産自動車・広報室を経て、フジテレビジョン入社。自民党記者クラブ等を経て、数多くの報道番組・ドキュメンタリー番組を制作。【主な作品】フジテレビ初のドキュメンタリー映画「HARUKO」は、平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞受賞。特別番組「名門に生まれるということ～市川海老蔵、宿命と苦悩の物語～」は国際エミー賞芸術番組部門でノミネート、ニューヨーク・フェスティバル芸術部門金賞受賞。DVD作品「アシュリーと生きて～短い命を刻む少女・7年間の記録～」は厚生労働省・特別推薦児童福祉文化財に選定。

イノベーションの世界的第一人者と学ぶ

幅広い世界が認めるイノベーターから、実用的なビジネススキルを学び、未来を創造するための理論と思想の体得を目指します。

多摩大学大学院グローバルフェロー
アレックス・オスターワルダー氏

アレクサンダー・オスターワルダー博士は、世界的ベストセラー『ビジネスモデル・ジェネレーション』の主著者であり、起業家、講演者としても活躍している。戦略マネジメントとイノベーションのためのツールやコンテンツに特化したソフトウェア会社「Strategyzer」を共同設立。オスターワルダー博士が開発したビジネスモデル構築ツール「ビジネスモデル・キャンバス」は、コカ・コーラ、GE、P&G、マスターカード、エリクソン、レゴ、3Mといった企業が採用している。

多摩大学大学院グローバルフェロー
イヴ・ピニュール氏

1984年よりローザンヌ大学教授。ジョージア州立大学、ブリティッシュコロンビア大学、シンガポール国立大学、モントリオール商科大学で客員教授を務める。ベルギー・ナミュール大学で博士号を取得。学術誌『Systemes d'Information & Management』の前編集長。世界的ベストセラー『ビジネスモデル・ジェネレーション』の共著者。ビジョナリー、ゲームチェンジャー、チャレンジャーたちのための指南書であるこの本は、30ヶ国語に翻訳されている。

多摩大学大学院グローバルフェロー
クリスター・ヴィンダル=リッツシリウス氏
—カオスパイロット(KAOS PILOT)校長兼CEO

デイビッド・ストークホルム氏
—プログラムディレクター

カオスパイロット(Kaos Pilot)はリーダーシップとアントレプレナーシップのためのデンマークのハイブリッド・デザインスクール。多くのメディアにも採り上げられており、多摩大学大学院はじめ国外でもプロフェッショナルプログラムを提供している。根底には、表層的な手法やプロセスではない、混沌とした時代を創造的に生きるためのデザイン思考メソッドがあり、体験的プログラムを特徴としている。

多摩大学大学院グローバルフェロー
マックス・マキューン氏

コンサルタント。英国王立芸術協会フェロー。ウォーリック・ビジネス・スクールでMBAとPh.D.を取得。「カスタマー・サービス・ホール・オブ・フェーム(顧客サービスの殿堂)」に選出された他、パーソナル・トゥディ誌の「ヒューマン・リソースのスター」としてノミネートされた。大小様々な企業での経験をもとに、戦略、イノベーション、リーダーシップ、チームビルディングなどについて、コンサルティング、講演、執筆活動を行う傍ら、イギリス国内外のラジオやテレビ、新聞などでも活躍している。

多摩大学大学院グローバルフェロー
マイケル・スペンサー氏

エデュケーター、ファシリテーター、ヴァイオリン奏者
上野学園大学音楽学部音楽学科 客員教授 音楽文化研究センター客員研究員 元ロンドン交響楽団ヴァイオリン奏者、元英国ロイヤル・オペラ・ハウス教育部長。現在、Sound Strategies 経営責任者。スペインで唯一自主運営をしているバレス交響楽団(バルセロナ)にて、教育プログラムと経営方針の特別顧問を務める。世界各地で芸術教育プログラムを開発・実践し、さまざまな芸術団体や企業から高い評価を受ける。日本でも社団法人日本オーケストラ連盟・文化庁後援により、24各地で教育プログラムを実施。2006のプロオーケストラと年皇后陛下ご臨席のもと、紀尾井ホールにてワークショップ型コンサート開催。2008年には、教育ディレクターを務めた『ピーターと狼』がアカデミー賞(短編アニメ部門)を受賞した。近年では、英国免疫学会の依頼を受け、科学者と芸術家、地域コミュニティーとの共生を目的とした芸術プログラムを英国各地にて制作・実践しており、NHK-BS『旅のチカラ』でも活動内容が紹介された。Japan Festival in London 2012 大会会長も務めた。

多摩大学大学院グローバルフェロー
ジェイ・オグルビー氏

グローバル・ビジネス・ネットワーク(GBN)の共同設立者。GBNは戦略立案のための最も一般的なツールとして世界で活用されているシナリオ・プランニングの方法論と実践を普及させるための知の中心となった。GBN以前は、イェール大学で哲学者として教鞭をとったのち、SRIインターナショナルのValues and Lifestyles Programのリサーチ・ディレクターを務めている。
オグルビー博士の現在の関心事は、北極海の氷冠の縮小である。1980年から縮小を続けており、2030-35年には夏に氷のない状態になるという。これによりアルベド効果(太陽の光が宇宙に反射される効果)が低下し、海水温度が上昇し、シベリアのツンドラからメタン(CH4)が放出される。これらは不可逆的な現象であり、私たちの終焉につながる可能性がある。
氏には『Creating Better Futures』、『Facing the Fold』、『Essays on Scenario Planning 』、『China's Futures』など多数の論文・書籍がある。

多摩大学大学院グローバルフェロー
エイミー・ウェブ氏

ニューヨーク大学経営大学院(NYU Stern Sbool of Business)教授、未来学者、Future Today Institute創業者。データとテクノロジー・ドリブン型の未来予測手法を開発、世界で最も尊敬されている企業ランキングのCEOのアドバイザーを多数務める。BBCが発表する世界に影響を与えた「100人の女性」(2020年)に選出。「シグナル」「BIG NINE 巨大ハイテク企業とAIが支配する人類の未来」など著作多数。

多摩大学大学院グローバルフェロー
ディスパナダ・ディスクル(デューク)氏

タイ、ラオス、ミャンマーの国境地帯は以前は世界の麻薬の大半を生産する黄金の三角地帯と言われた無法地帯であり、ケシの栽培で森林は荒れ果て少数山岳民族は搾取されていた。その荒涼な地域を有数の観光地に変え、住民が自立できる経済と社会に変革したNGOを率いるリーダーが、社会イノベーションの実践知を伝授します。

第一線管理者・経営者層を対象とした特別プログラム

VUCAなグローバルビジネス環境に向かって、『理想とする未来を構築し、実践する力』を参加者間のディープなディスカッションを交え、身につけます。

履修証明プログラム　**『ライフシフト大学プログラム』**

～ 80歳まで現役で活躍するために～

人生100年時代を迎えた今、定年退職後の40年を、あなたはどう生きていきますか?
「60歳で定年退職」は、もはや人生のゴールではありません。これからは80歳まで働かなければ、100歳まで生きる資金が確保できないといわれています。
一方、企業では、高齢化・人口減少が進む中、定年延長や高齢者雇用を行う、定年前の副業・兼業を認める、社内起業家を募るといった動きが出てきています。
このような環境の変化に、あなたはどう対処しますか? 多摩大学では、ライフシフト大学と連携し、人生100年・仕事人生80年を見据え、中高年の学び直しの場、人生を豊かにするための視野拡大の他流試合の場を提供します。

『ライフシフト大学プログラム』
3つの特長

履修証明制度とは

履修証明制度とは、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、大学が教育や研究に加えてより積極的な社会貢献として、主として社会人向けに体系的な学修プログラムを開設し、その修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付するものです。

品川塾 ～イノベーション・エコシステムの創造拠点～

品川塾
PRODUCED BY
多摩大学大学院
http://tgs.tama.ac.jp/shinagawa-juku/

「品川塾」は、品川にキャンパスを構える多摩大学大学院が触媒となり、品川エリアに集まるイノベーション志向の企業や個人のネットワークを支援する試みです。国内外の著名スピーカーによる講演やワークショップなどを通じ、都市に根差したイノベーション・エコシステムと新たなコネクションを創造していきます。

**Q. 受験条件は、大学卒業でないと受験できませんか?
社会人経験3年以上でないと受験できませんか?**

A. 出願資格により、「3年以上の実務経験を有している職業人を優先する」、「本大学院において大学を卒業したと同等以上の学力があると認めた者」と明記しております。3年以上の実務経験を有していると認められる方、学部卒業と同等の資質があると認められる方には、事前審査により門戸を開いていおり、受験することが可能です。

**Q. 学費はいくらですか。
奨学金制度はありますか?**

A. 入学金30万円、授業料は各学期50万円の分割納入です。半年ごとの納入で、4期に分けて2年間で納めていただきます。本学独自の奨学金制度として特待生奨学金制度があり、選定されますと授業料が2分の1になります。
また、厚生労働大臣より「専門実践教育訓練指定講座」の認定を受けております。一定の要件を満たす場合は、最大112万円がハローワークより支給されます。

Q. 仕事と勉強を両立できるか心配です。また、土・日曜日のみの受講で修了できますか?

A. 本学に在籍する院生の方は、平日に2日程度、土曜日、日曜日のどちらかの授業に参加しています。また、土・日曜日のみの受講で、修了に必要な30単位を修得できるよう、カリキュラムを組んでいます。そしてキャンパスも品川駅港南口より徒歩1分という立地にあり、多忙なビジネスパーソンが、仕事と学業を両立しやすい環境を整えています。

Q. 学位論文が提出できるか心配です。

A. 本学では、学位論文が学びの集大成と位置づけています。
1セメスター終了時に論文基礎講座で、論文の基礎(手法、情報収集の仕方)を学んで頂きます。2セメスターより主指導教員による論文演習がはじまります。その他、定期的に主指導教員、副指導教員による論文指導などで、院生の皆さんの学位論文をサポートしています。

入学者選抜について

アドミッションポリシー

- 経営の現場・現実に根ざした高度な経営専門知識および創造的問題解決能力の修得と錬成に、強い意欲と学習能力を有する人。
- 「何のための理論か」「何に役立つ知識なのか」を常に追求し、これまでの経験の振り返りと新たな知の吸収により、新たな時代認識のもとで、「知の再武装」を行う覚悟がある人。
- 現実を転換しようとする熱い思いとしたたかな実践知を養い、イノベーションを起こしていく、挑戦するリーダーとして社会に貢献することを志す人。

出願資格

民間企業・官公庁等に在職し、入学時現在3年以上の実務経験を有している職業人を優先し、下記のいずれかに該当する者。
1. 大学を卒業した者。または、本大学院において大学を卒業したと同等以上の学力があると認めた者。
2. 学校教育法（昭和22年法律第26条）第68条の2第3項の規定により大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者。
3. 外国において学校教育における15年の課程を修了した者。
4. 文部科学大臣の指定した者。
5. 外国人留学生においては、日本語能力試験（JLPT）N1取得者もしくは日本留学試験（EJU）330点以上かそれ同等以上の力がある者。

注1: 左記資格を入学の前までに有することとなる見込みの者を含む。
注2: 1.の「本大学院において大学を卒業したと同等以上の学力があると認めた者。」の資格で出願しようとする者は、あらかじめ出願受付の2週間前までに照会すること。

修士課程 入学試験（2022年4月入学／9月入学）

募集人員

- 4月入学…40名　● 9月入学…20名

出願期間

4月入学：2021年10月1日（金）～2022年2月21日（月）※消印有効

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
出願締切日	2021年10月25日（月）	2021年11月22日（月）	2021年12月13日（月）	2022年1月24日（月）	2022年2月21日（月）

9月入学：（出願開始時期）2022年4月1日（金）～

選考方法

出願書類試験と面接試験の総合評価により判定いたします。
面接試験時間は、約30分実施いたします。
留学生のみ面接試験を2回（1次30分・2次30分）実施いたします。

面接試験日／面接試験会場

面接日は出願書類提出後、調整いたします。
会場：多摩大学大学院 品川サテライト（品川駅港南口徒歩1分）
東京都港区港南2-14-14　品川インターシティフロント5階

合格発表

面接審査を実施した後5日以内に合否結果通知を郵便にて通知します。
※電話、メールによる問い合わせには応じられません。

入学手続期間

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
入学手続締切日	2021年11月5日（金）	2021年12月3日（金）	2021年12月27日（月）	2022年2月4日（金）	2022年3月4日（金）

特待生（スカラシップ生）制度

入学手続きをした入学試験での成績優秀者の中から選ばれる特待生（最大6名）に対しては2年間の授業料のうち2分の1相当額（100万円）の学費を免除いたします。やむを得ず休学をする場合には特待対象外となり、以後復学した場合にはそれ以降の授業料については一般院生と同じ50万円となります。（入学後審査）

私費外国人留学生授業料減免制度

多摩大学私費外国人留学生授業料減免規程に基づき、私費外国人留学生を対象として、経済的負担を軽減するために、選考（審査）の上、対象と認められた一定数の私費外国人留学生に対して、年間授業料の3割（30万円）を免除いたします。（入学後に審査）

学費（2022年4月入学）

1年目			2年目		合計
入学金	授業料				
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
30万円	50万円	50万円	50万円	50万円	230万円

※授業料は各学期開始時に50万円納入していただきます。
※入学手続時の納入額は、入学金30万円、半期授業料50万円、合計80万円となります。
※入学試験での成績優秀者の中から選らばれる特待生（スカラシップ生）は、2年間で授業料が100万円免除となります。（2年間学費総計130万円）

学位称号

- 修士（経営情報学）

博士課程 入学試験（2022年4月入学）

募集人員

- 5名

出願期間

2022年1月10日（月）～ 2022年2月21日（月）※消印有効

選考方法

- 第1次選抜（語学試験・書類審査）

語学試験（英語）と提出された書類の審査に基づいて選抜を行います。
語学試験（英語）［辞書（紙ベース）持込可］　※電子辞書は認めません。
日程：2022年2月26日（土）10:00～11:30（90分）
会場：多摩大学大学院 品川サテライト（品川駅港南口徒歩1分）
東京都港区港南2-14-14　品川インターシティフロント5階
集合時刻、会場等の詳細については、受験票と併せて郵送で通知します。

- 第2次選抜（口述試験）

第1次選抜の合格者についてのみ実施します。提出された研究計画書、これまでの研究概要等に基づき、研究分野や職務等に関しての口述試験を行います。
日程：2022年3月5日（土）10:00～13:00のうち30分
会場：多摩大学大学院 品川サテライト（品川駅港南口徒歩1分）
東京都港区港南2-14-14　品川インターシティフロント5階
開始時刻、会場等の詳細については、第1次試験選抜合格者に郵便にて通知します。

合格発表

第1次選抜 合格者発表	第2次選抜 合格者発表
2022年2月28日（月）	2022年3月7日（月）

合否結果通知は、郵便にて送付します。
第2次選抜の合格者には、「合格通知書」及び「入学手続要綱」を送付します。
※電話、メールによる問い合わせには応じられません。

入学手続期間

2022年3月7日（月）～ 3月22日（火）

学費（3年間で修了する場合／ 2022年4月入学）

1年目			2年目		3年目		合計
入学金	授業料						
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
30万円	50万円	50万円	50万円	50万円	50万円	50万円	330万円

※授業料は各学期開始時に50万円納入していただきます。
※入学手続時の納入額は、入学金30万円、半期授業料50万円、合計80万円となります。

学位称号

- 博士（経営情報学）

GREEN PRINTING JFPI
P-A10005

出願について（修士課程 2022年4月入学）

出願書類

入学志願票及び受験票・写真票	●本大学院所定の用紙　●所定事項に記入してください。 ●出願前3カ月以内に撮影した縦4cm・横3cmの写真（2枚）を貼付してください。
最終学歴の成績証明書及び卒業・修了証明書	●結婚等で改姓され、証明書の氏名と異なる場合は、戸籍抄本を提出してください。 ●外国人留学生及び外国の大学等を卒業された場合は、「英文」の証明書を提出してください。
課題エッセイ	●本大学院所定の用紙 ●課題エッセイを本大学院所定の用紙に記入し提出してください。
入学検定料の振込控（写）	●**入学検定料　35,000円** ●銀行振込（出願書類発送までに下記銀行口座に振込手続きを済ませてください） 三菱UFJ銀行 多摩センター支店　普通預金（口座番号）0693846 名義：大学院口 学校法人 田村学園 理事長 田村嘉浩 （ﾀﾞｲｶﾞｸｲﾝｸﾞﾁ　ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾀﾑﾗｶﾞｸｴﾝ　ﾘｼﾞﾁｮｳ　ﾀﾑﾗﾖｼﾋﾛ） ※いったん納付された入学検定料は、理由にかかわらず返還いたしません。※写は、A4 縦型用紙
推薦書（該当者のみ）	●本大学院所定の用紙 ※学士、修士、博士の学位保持者は**提出不要**です。不明な場合はお問い合わせください。
外国人留学生は、右記の書類もあわせて提出してください	●日本語学校の出席証明書　●日本語学校発行推薦状（本大学院所定用紙） ●日本語の能力試験（JLPT）N1を証明するもの（写）もしくは日本留学試験（EJU）の点数を証明するもの（写） ●パスポート（写）※A4縦型用紙1枚　●在留カード（写）※カード表裏をA4縦型用紙1枚　●住民票

【外国語能力試験の資格加点優遇措置について】
TOEIC、TOEFL、IELTS、実用英語技能検定などの外国語の能力測定等において4技能（読む、書く、聞く、話す）で高い評価を受けている方については、加点処理を行い、優遇します。加点優遇措置を希望する方は、出願時に証明する書類のコピーをご提出ください。

出願書類の提出方法

■出願書類等は一括して本大学院所定の封筒に入れ、簡易書留・速達にて郵送してください。
■出願書類の提出先
多摩大学大学院 アドミッションズオフィス
〒108-0075
東京都港区港南2-14-14
品川インターシティフロント5階
TEL 03-5769-4170
FAX 03-5769-4173
E-mail tgs@tama.ac.jp
※出願書類受理後は記入事項の変更は認められません。
※提出された出願書類等は理由にかかわらず返還いたしません。

POINT！　専門実践教育訓練給付金について
本大学院修士課程は、厚生労働大臣より『専門実践教育訓練指定講座』の認定を受けております。一定の要件を満たす場合、**最大112万円**がハローワークから支給されます。

募集要項・入学志願票の入手方法

インターネットで請求してください
http://tgs.tama.ac.jp/

メール
tgs@tama.ac.jp

電 話
Tel.03-5769-4170

- 多摩大学大学院事務室は、多摩キャンパス（東京都多摩市）にあります。多摩大学大学院の授業は品川サテライトで行います（品川サテライトにも事務室があります）。

履修証明プログラム

『ライフシフト大学プログラム』

履修証明制度とは、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、大学が教育や研究に加えてより積極的な社会貢献として、主として社会人向けに体系的な学習プログラムを開設し、その修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付するものです。
※ この履修証明プログラムは、多摩大学大学院×株式会社ライフシフトの共同プログラムです。

募集要項

■入学定員　30名（春学期：15名／秋学期：15名）
■出願期間
2022年4月入学〈春学期〉2021年12月1日（水）～ 2022年3月25日（金）
2022年9月入学〈秋学期〉2022年6月1日（水）～ 2022年8月31日（水）
■入学手続期間
2022年4月入学〈春学期〉2022年3月30日（水）※消印有効
2022年9月入学〈秋学期〉2022年9月9日（金）※消印有効
■授業料　400,000円　※完全対面授業になった場合は、500,000円
■出願資格
民間企業・官公庁等に在職し、入学時現在3年以上の実務経験を有している職業人を優先し、下記のいずれかに該当する者。
1. 大学を卒業した者。
2. 学校教育法（昭和22年法律第26条）第68条の2第3項の規定により大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者。
3. 外国において学校教育における15年の課程を修了した者。
4. 文部科学大臣の指定した者。
5. 本大学院において科目等履修生として適当と認めた者。
■審査
出願書類審査と面接審査の総合評価により判定いたします。
面接試験時間は、約30分程度実施いたします。
■出願検定料　無料

学びたい分野を集中的に学びたい方へ

単科生制度

単科生制度とは、大学院に正規に入学をしなくても、所定の手続を経て受講を許可された者（単科生）が、特定の科目について履修し、単位の認定を受ける制度のことです。

募集要項

■募集人員　各科目若干名
■履修期間　春学期（6ヶ月）／秋学期（6ヶ月）
■出願期限
〈春学期〉2022年3月14日（月）／〈秋学期〉2022年8月22日（月）
■履修手続期限
〈春学期〉2022年3月29日（火）／〈秋学期〉2022年9月6日（火）
■授業料　科目履修料 1科目（2単位）12万円
■出願資格
民間企業・官公庁等に在職し、入学時現在3年以上の実務経験を有している職業人を優先し、下記のいずれかに該当する者。
1. 大学を卒業した者。
2. 学校教育法（昭和22年法律第26条）第68条の2第3項の規程により大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者。
3. 外国において学校教育における15年の課程を修了した者。
4. 文部科学大臣の指定した者。
5. 本大学院において科目等履修生として適当と認めた者。
■審査
書類審査とし、必要に応じて面接を行います。面接を行う場合は時間・場所については別途ご連絡します。審査結果は、判明次第発送します。

私たちの挑戦 3
在学生 & 修了生VOICE

言葉だけの女性登用ではなく、真の意味での女性のキャリアマネジメントを！

田辺三菱製薬プロビジョン株式会社　マネジャー
矢山 幸子さん（2021年3月修了）

Profile　2002年に田辺三菱製薬に入社し、MR、営業スキル・製品知識の研修担当、MRコーチを経験し、営業における課題を幅広い視点で見てきた。特に女性MRのキャリアにおけるマネジメント意識について課題と捉え、自身も女性管理職登用が加速化した2018年に初の女性営業所長となり、課題解決のために多摩大学大学院へ入学。現在は子会社へ出向し、学術情報のマネジメント業務に従事。

求められるイノベーターシップ修得のために

AIの導入、デジタル化、創薬系バイオベンチャーとの積極的な提携など、いま製薬企業を取り巻く環境はドラスティックに、そしてグローバルに変化しています。当然、現場でビジネスを牽引していく管理職にも、これまでとは異なるスキルが求められるようになりました。それはプレイヤーとして培った経験に基づくリーダーシップではなく、環境変化を敏感に察知し、変革を推進していくイノベーターシップ。その重要性に気づいた時期に営業所長を拝命し、経営全般に関する基盤となる知識修得と実践力が必要と考えたことが、私が大学院で学ぼうと思った理由です。多摩大学大学院は超実学志向MBAという点に魅力を感じましたが、それだけでなく、共に学ぶ仲間の存在も重要でした。同期だけでなく先輩や後輩とも接点があり、志が高い仲間と出会える。そんな彼らとの交流からも、刺激や豊富な"知"を得られると思ったのです。

実際に講義を受けてみると、講師陣は実務経験豊かな専門家ばかり。カリキュラム数も豊富で、講義は常に少人数で行われます。講師と意見を交わす機会も多いため、一回の講義で得られることは多岐にわたります。ブランディングやマーケティングに携わった経験から実践的な目線で講義をしてくれる佐野扶美枝客員教授の「商品ブランドマネジメント」や、経営に資する人事の観点からMBBを軸にしたグローバル組織創出のノウハウを学べる徳岡晃一郎教授の「ヒューマンリソース概論」など、どの講義も新たな知識と視座を与えてくれるものばかりでした。

女性自らがキャリアを選べるスキームの構築を

大学院を修了した現在、これまでよりも情報収集に敏感になり、その量だけでなく質についてもこだわりを持つようになったと感じています。またエビデンスベースの意識が高まり、より説得力のある発言ができるようにもなりました。これは大学院での学びが単なる知識修得ではなく、実践知であったからこそ。学んだ知識をすぐに活用することでその経験が自分のものとなり、さらに深く学ぼうという意識を保っていられるのだと思います。

そうした自分自身の体験や、VUCA（ブーカ）の時代をさらに加速させた新型コロナウイルス感染症の拡大から、私は「知の再武装」の重要性を再認識しました。OECDによる調査でも、学び直しと生産性には一定の相関関係があるという結果が出ています。けれども、残念ながら日本では業務を通して実務経験を積むことに主眼が置かれており、この分野で他国の後塵を拝しているといわざるを得ません。製薬企業も創薬に留まらずイノベーションが求められていますが、そのためにはレジリエンスが高く、外部環境の変化を敏感に察知して「考動」できる人材の育成が喫緊の課題となっています。新たな情報を積極的にインプットする環境と、業種・職種を問わず優秀な人脈を獲得するため、学び直しの重要性を痛感する毎日です。

実践知論文では「内資系製薬企業営業部門での女性のキャリアにおける"マネジメント"の動機づけ」をテーマに研究を行いました。この論文を人事部への提言とし、自社だけでなくあらゆる製薬業界の関係者と関わる中で、真の意味で女性が働きやすく選択肢の豊富な社会の確立をめざしたいと思っています。そのために、営業部門の女性管理職代表という意識で視野を広げた活動をしていくつもりです。

製薬企業として、また営業職として、パフォーマンスを上げるためには多様性が欠かせません。国連が提唱するSDGsの中でも、「女性と女児のエンパワーメントを図る」ことが重要項目に挙げられています。ただ大切なのは、女性管理職比率や制度だけで女性活躍推進を謳うのではなく、女性が自ら管理職の道を選択できるようなスキームの構築。それが優秀な人材の確保や多様な人材を受け入れる土壌を作り、企業の風土を変え、ひいては企業存続の原動力になります。弊社が女性活躍推進を牽引し社会から評価される企業となるよう、私も業務を通じてその一翼を担いたいと思います。

矢山さんへ、教員からのメッセージ

矢山さんは、私の教える①ヒューマンリソース概論②日本の製薬企業の未来③論文演習の授業を受講いただきました。中でも論文演習の取り組む姿勢には、感銘を受けました。多摩大学大学院は、卒業時に学びの集大成として論文作成があります。自社の課題を持ち込みどう解決するかの正に実践知論文になります。問題解決の仮説や先行研究からリサーチクェッションを特定し、インタビュー調査やアンケート調査を実施し、データードリブンでの提言を纏めるというものです。就活と同じで、この論文作成の時期だからこそ異業種や競合他社にも面談できると、精力的に取り組む姿の印象が残っています。結果として、最優秀論文賞を受賞しました。入学時の女性初の営業所長から、さらに社内外で活躍するリーダーとなってくれることを期待しています。

佐々木弘明
多摩大学大学院
教授

私たちの挑戦 4
在学生 & 修了生VOICE

超実学志向MBAで磨いた、社会における自身の存在価値

株式会社NTTデータ　開発系事業本部　人事部門　課長
原田 桂樹さん（2021年3月修了）

Profile　入社後、公共システム及び、金融機関向けシステムにおけるインフラ構築業務に従事。その後様々なプロジェクトにて、システム開発経験を蓄積し、プロジェクトマネジャーとして金融サービスのシステム開発・システム企画を担当。そして現在は、開発系部門の人事担当マネジャーとして、人事、育成、総務、労務を担当し、組織活性・エンゲージメント向上に従事する。

多様な背景の仲間たちと実践知に取り組んだ日々

『構想力の方法論』。紺野登教授と野中郁次郎教授が著したこの本との出逢いこそ、私が多摩大学大学院で学ぼうと思ったきっかけです。ITシステム構築を生業とする会社の開発部門で、プロジェクトマネジャーとして業務を遂行。当時の私は、価値を創出する新たなビジネスを構想するために、新たな手法での知の吸収を必要としていました。そんな想いを抱えた時期にこの本と出会い、多摩大学大学院のことを知ったのです。イノベーション思考・人事・リベラルアーツの醸成にも力を入れており、データ分析に関する講義も充実。MBAとしての価値のみならず講義は非常に実践的で、ビジネスを構想していくための学びに最適な大学院だと感じた私は、多摩大学大学院の扉を叩きました。

学び始めるとどの講義も「社会価値の向上に資するもの」という理念が通底されており、価値のあるものでした。入学のきっかけとなった紺野教授の講義は思考の鍛錬に最適でしたし、徳岡教授の人事に関する講義では、未知の分野であった人事の重要性に気づくことができ、それがITエンジニアの自己成長支援という、自身の修士論文にもつながったと思っています。両教授の講義以外にも、第一線で活躍する講師陣による幅広い分野のカリキュラムが開講している点が、多摩大学大学院の大きな特徴です。特にデータサイエンスフィールドの今泉教授、志賀教授、久保田准教授、中野客員教授の講義は、量的・質的研究の考え方を身につけることができ、ものの見方のレベルが上がったと感じています。こうした「実践知」の豊富な講師陣と、リアルタイムで進行している社会の課題について論じ合い、さまざまなバックボーンを持つ仲間と思考錬磨した日々は、思い返しても充実した毎日でした。また私の勤務地からも非常に近く、仕事帰りに通いやすいロケーションであったことも、働き始めてからの学び直しをやり遂げることが出来た大きな要素だったと思います。

学んだからこそ分かる「知の再武装」の重要性

多摩大学大学院では「知の再武装」を標榜していますが、学びの重要性については個々の資質や状況によっても多寡があると思います。ただ、私の場合は絶対に必要であったと、大学院を修了した今、強く感じています。講義を基盤とする学びは、知識・見識・視座の獲得のみならず、多様なバックグラウンドを持つ他者との交流があります。そこでの意見交換を通して視野が広がり、相互主観的にものごとを考察する力も向上したと感じています。講義を通して自然と行われたこうしたトレーニングは、書籍を読んだりネットを検索したりするだけでは決して味わえない経験であり、私にとって何物にも代えがたい財産です。実際、大学院修了後も院生時代に培ったコミュニティは役立っており、キャリアを形成していくための大きな幹を作ることができたと考えています。

大学院での知の再武装と並行し、私自身のキャリアも変化。現在はITシステム開発でのプロジェクトマネジャー職から、人事部門でスタッフ系業務に従事するポジションへと異動になりました。徳岡教授の下でも人事についての知見を深めましたが、その実例と課題が目の前に提示されている。人事だけでなく育成や総務・労務など、幅広く対応することでこれらの課題に取り組んでいくことが、直近の目標です。前述の通り私の修士論文は、組織における個の自己成長に対するマネジャーの支援方法と視座を考察したもの。執筆にあたり深く掘り下げた内容は業務にも活かされており、組織活性や価値向上に資するような施策の構想・実行に取り組む毎日です。

振り返ってみると、多摩大学大学院での学びは、私自身のキャリアの幅を大きく広げてくれました。それと同時に、社会価値に資するための自分の存在価値とは何なのかを改めて考える、またとない機会となりました。多様性が叫ばれる現在、より豊かで調和の取れた社会の実現に貢献するため、自分自身が何をすべきなのか。他者とのつながりの中で、自らのビジネスの中で、そのための構想に取り組み、学んだことを活かしつつ、実現のための方策を探っていきたいと思っています。

原田さんへ、教員からのメッセージ

熱い思いを持って同期のリーダー格の一人として2年間を駆け抜けた男。原田さんは大手IT企業のミドルとして、多くのエンジニアたちとともに多忙で充実した毎日を過ごしていたが、知識創造に関する一冊の本との出会いを通じて、「このままの自分でいいのだろうか…」という疑問を持った。業務上の成果やスキルアップ以上に、社会課題の視点から本質的なことに取り組む大人の責任を感じたのだ。現状に埋没する道を避けるため大学院を目指した原田さんは、ITエンジニアたちを活性化せる新たなマネジメントの手法を修士論文で書き上げた。卒業後はその実践に邁進しているという。頼もしいミドルがまた一人旅立ってくれた。

徳岡 晃一郎
多摩大学大学院
教授

私たちの挑戦 在学生 & 修了生VOICE 1

学び直して感じる、激動の時代を生き抜くために不可欠な、知の再武装

株式会社学研ホールディングス
コーポレートコミュニケーション室マネージャー
佐藤 梓さん（2021年4月入学）

Profile　1999年、(株)学習研究社(現:学研ホールディングス)に入社。約10年にわたって雑誌編集を担当。2009年、縮小する出版業界に危機感を感じ、「自ら売る力」を身につけるため志願して営業部門に異動。その後秘書室、ダイバーシティ推進室、シンガポール駐在、グローバル戦略室勤務を経て現職。

変化しなければ生き残れない それは会社も人も同じ

私が(株)学習研究社(現:学研ホールディングス)に入社した当時、出版業界は縮小傾向にあり、弊社も例外ではありませんでした。私自身はマスコミの一端を担うことへの希望にあふれていましたが、中には「このままでは、この会社は危ないのではないか」と将来を悲観する社員もおり、私も一抹の不安を抱えての社会人生活スタートとなったのです。

それから約20年。弊社は中核事業を教育と医療福祉の2領域へと大きくシフトし、好調な業績を残しています。私がそこから学んだのは、「企業は変化し続けなければ生き残れない」という、至極シンプルなこと。そしてそれは企業のみならず、人についても当てはまります。次世代のビジネス基軸を構築するために、中心的役割を担うのは私たち40代の社員です。けれども手持ちの知識や経験だけでは、新たなブレークスルーを生み出すことは難しい…。焦燥感を抱えつつ、今後の社業の変化にも貢献できる人材となるべく私が選んだのは、知の再武装でした。多摩大学大学院は講師陣が幅広く、ルール形成やサステナビリティといった注目の領域についても深く学べると思い、門を叩いたのです。

多様な背景の学生が認め合い 意見を交わす環境

実際に学び始めてみると、想像していた以上に実践的な内容の授業が多いことに驚いています。水木さとみ教授の「ストレスマネジメント」では、対人関係やマネジメントにおいて活用できるフレームワークやコミュニケーション方法を教えていただき、普段のビジネスにおいても大いに役立ちました。また医療福祉は弊社の中核事業の一つでありながら自分事として捉え切れていなかった私にとって、理解を深めるきっかけとなったのが真野俊樹特任教授の「医療・介護経営」です。医療介護領域における「課題の捉え方」や「視点の置き方」などを身につけることができ、自社事業に対する理解度がより深まったと感じています。

講義自体も土日に数多く開講されており、平日に無理に時間を捻出する必要もなく、じっくりと課題に取り組むことができます。そして書物を読むだけの知識習得では得られない、人との出逢いがここにはあります。経験豊かな講師陣はもちろん、多様なバックグラウンドを持つ学生が集い、意見を交わす。皆が背伸びをすることなく、分からないことは「分からない」と言いやすい環境なので、互いに切磋琢磨し、学びを深めることができます。

後輩社員に、自信を持ってバトンを渡したい

入学して半年が経ちましたが、知識の習得以外にも、自分の中のさまざまな変化を感じています。その一つが、対人コミュニケーションにおける相手の捉え方です。以前は「何故この人はこんなことを言うのだろう?」と同僚の言動が腑に落ちないことも多かったのですが、相手を俯瞰的に捉えるスキルが向上したと感じます。これも、ストレスマネジメントやインナーコミュニケーションの講義で学んだことが活かされているからだと思います。

自分が経験してきた体験だけで、現代のような激動の時代を生き抜くことは到底できません。他者との協働から今までにない価値を創出することが不可欠で、そのためには改めて学びに取り組む必要があります。それが「知の再武装」であり、これからのビジネスパーソンに求められるものだと思います。

2021年、弊社グループは創業77年目を迎えました。不安を感じながら始まった私のキャリアは、会社の成長に歩を合わせて豊かなものとなり、知の再武装によってより高いレベルをめざせるようにもなりました。いつまで働くことになるのか、現状では分かりません。けれともいつか退職する日には、「この会社は100周年まで安泰だよ」と、自信をもって後輩たちにバトンを渡したい。そのためにより研鑽を重ね、一層社業に貢献できる人材へ成長していきたいと思っています。

佐藤さんへ、教員からのメッセージ

人生100年の計画にしたがい、ビジネスパーソンは皆、御社名のとおり生涯「学習」と「研究」を継続し、知の再武装を続けないと生き延びるのがむずかしい時代に生きています。佐藤さんにおかれては、本学の提供するさまざまな分野の科目に挑戦し、在学中も卒業後の同窓会活動を通じても、知的好奇心を目一杯にして、ますます広い視野から新しい時代にビジネスを展開できるようになることを祈っています。

宇佐美 洋
多摩大学大学院
教授

私たちの挑戦 在学生 & 修了生VOICE 2

現場だけでは学べない実践知を身につけることで広がるセカンドキャリア

味の素株式会社
人事部人財開発グループ　シニアマネージャー
宮川 隆史さん（2021年4月入学）

Profile　1990年、味の素(株)に入社。営業、広報、人事、経企、海外、事業、関係会社と、さまざまな部署でキャリアを重ねる。海外で人の力は無限であることに感動し、人事に手を挙げて教育・研修、採用、そして現在はキャリア支援の責任者を担当。4,000名の社員の自律的キャリア開発支援に向けた制度整備、キャリア研修やカウンセリングなどを行っている。

人生100年の時代 今こそ学び直す時

多摩大学大学院入学のきっかけは、ライフシフト大学に通ったことです。人生100年時代、仕事人生80年時代を豊かに生きるための学びの場で多様なメンバーと学ぶ中、自分に不足している部分や弱い部分が浮き彫りになりました。社内においてさまざまな部署を経験し、その都度新たな知識や経験を身につけてきましたが、これからの人生を考えた際、「今こそ、本腰を入れて学び直す時」と強く考えさせられたのです。多摩大学大学院は実務家の講師陣が多い超実学志向の大学院であり、少人数クラスで学べる点が魅力的に映り、入学を決めました。これまで蓄積してきた知識や経験を総動員しながら、日々変化を続けるビジネスをキャッチアップし、その本質を学んでいく。それによって点と点がつながり、ものごとの捉え方そのものが大きく変化するのではないか。そして教室での学びを現場に持ち帰り、日々の業務にダイレクトに反映させたいと思ったのです。

机上の理論で終わらない血の通ったビジネス実践知

入学した当初の春学期には、9科目を履修しました。どの講義も興味深いものでしたが、特に3つの科目が私の考え方、ものの見方に大きな変化を与えてくれたと思っています。

佐藤勝彦特任教授の「ビジネス実践知探求」で学んだ編集工学を通して自分の思考の「癖」に気づくことができ、整理して伝えることが速くなりました。また田坂広志名誉教授の「スーパージェネラリスト」では、徹底的に自己と向き合う中で内省が進んだと思います。そして國分俊史教授の「社会課題起点のルール形成戦略」では世界の裏側を見ることができ、受け身ではなく仕掛ける大切さと難しさを学ぶことができました。

これらに限らず、どの講義も机上の理論で終わらない血の通った最新のビジネス実践知を学ぶことができ、実社会ですぐに活かせる点が魅力です。それが可能になるのも、指導を担当する講師陣が実務経験の豊かな、第一線で活躍されている方が中心となっているから。また、共に学ぶ仲間も年齢や国籍、バックグラウンドが異なる学生ばかりです。どの講義も少人数クラスで行われるので、彼らと意見を交わすことで自分にはなかった視座を得たり、意図をきちんと伝える発信力などを学ぶことができました。

学び直すことでアウトプットの質も向上

社会人となって約30年。振り返ると私のインプットは社業におけるOJTが中心だったと思います。そこからのアウトプットも可能ですが、より高い次元、従来とは異なる視座での物事の捉え方を修得するには、日々の業務だけでは容易ではありません。自分自身を高めるためには、専門性が高く幅広いビジネス実践知を学ぶことが重要だと、学び始めて実感しています。

そうした気づきだけでなく、自分の中でもいくつかの変化が生まれました。まず、業務の処理能力が向上したこと。それぞれの講義を履修するには予習が必要であり、またレポートの提出も課せられます。常に頭が回転していることで、見関係のないようなことが突然結びつき、本質的で素早い判断ができるようになったのかもしれません。また物事の見方が多面的になったり、その背景までを視野に入れられるようになった。幅広い知識が頭に入っていることによって、見える世界が変わった気がします。

数年前までは、セカンドキャリアは別の会社での人事総務やキャリアコンサルタントといった仕事を通して社会貢献したいと思っていました。けれども学び始めたことで、現在のキャリアパスの延長線上だけでなく、実力があれば大きな可能性に挑戦できるという考えに至ったのです。マネジメントは人やモノ、金、情報といったさまざまな要素によって構成されます。多様な院生と切磋琢磨しながら、その体験を身体に染み込ませるような学びをし、新たな実践知を身につけることで、まだ見ぬ世界に自ら切り拓いていきたいと考えています。

宮川さんへ、教員からのメッセージ

宮川さんは私の講義「マーケティングマネジメント概論」を受講してくれましたが、柔らかい人柄が印象的な方です。所属先の企業の海外子会社でグローバルマーケティングの実務に関わったご経験もありクラス・ディスカッションでも活発に発言しクラス全体の学びに貢献してくれました。人事、営業、広報、マーケティングと幅広いキャリアを経て培った企業経営に対する広い視野とスキル、バランス感覚を活かして、今後組織の枠を超えた活躍を期待しています。

河野 龍太
多摩大学大学院
研究科長　教授

私たちの挑戦

実践志向の濃密な2年間が強靭な実践知と得がたい絆を育む

修了生座談会

現実を変革する熱い志を抱き、2年間にわたってイノベーターシップを鍛え抜いた修了生たち。彼らのたどった軌跡には、実社会の問題に直面し、その本質的解決を求める人にとって、重要な手がかりに満ちていることでしょう。多摩大学大学院を選んだ理由、そして、そこで手にしたものとは。実践知を生かして活躍する3人の修了生に語っていただきました。

MURAKAMI Hiziri
村上　聖さん
2015年4月入学／2017年3月修了
株式会社日山畜産 代表取締役

TAKEUCHI Toshie
武内　利枝さん
2005年4月入学／2007年3月修了
株式会社JPI（日本計画研究所）代表取締役社長

KOBAYASHI Hitoshi
小林　等さん
2015年9月入学／2017年9月修了
一般社団法人Career Axis研究所 代表理事
玉川大学 観光学部 准教授

三様の視点で浮かび上がる〝なぜ、多摩大学大学院か〟

武内　みなさん、それぞれの問題意識をもって、多摩大学大学院の扉を叩かれたかと思います。まずは「どうして多摩大学大学院を選んだのか」という振り返りを軸に、お互いのバックグラウンドを話してみませんか。

小林　そうですね。私のターニングポイントは2012年にさかのぼります。温めていたビジネスプランが、社内の新規事業アイデアコンテストに合格し、実現させようという運びになりました。入社以来、営業一本で勤めてきた私にとって、事業開発は未踏の世界。構想はあっても、実現する手法が全く分かりません。大きな壁にぶつかり、解決する術を模索する中で、浮かび上がったのが多摩大学大学院でした。

村上　私の場合は、父親から会社を引き継ぐことになり、経営の舵取りに深く悩んだ時期がありました。経営状態も良好とはいえず、企業再生の糸口をつかみたい一心でさまざまなビジネススクールを当たりましたが、中でも強く惹かれたのが多摩大学大学院だったのです。

武内　お二人とも、ビジネスのクリティカルな問題を抱えていたということですね。しかし、数あるビジネススクールの中で、どうして多摩大学大学院を選んだのでしょうか。私自身でいいますと、入学を強く薦めてくれる人が身近にいました。先代社長であり、多摩大学大学院の修了生でもある父親です。しばしば田坂先生の話を聞かされ、「仕事」に対する深い叡智をお持ちだと知って、実際に師事してみたいと思いました。

村上　ビジネスの第一線で活躍する先生が数多くいらっしゃることは、大きな魅力に違いありません。アカデミックな知識だけでなく、ビジネスの経験に基づいた実践知を得られること。それが多摩大学大学院を選んだ決め手のひとつです。

小林　多摩大学大学院に入学する前、短い期間ですが、別のビジネススクールを経験したことがありました。そこでは院生が大人数のため、発表の機会が少なく、満足に質問することもできませんでした。その点、多摩大学大学院の少人数制は、大きなメリットだと思いましたね。

武内　品川の街も大きく発展してきました。国土交通省が新たな国土形成構想「スーパーメガリージョン」を打ち出し、東京、大阪、名古屋の三大都市を中心に全国をつなぐとのこと。その最重要結節点である品川にキャンパスがあることは、今後、より大きな意味をもってくるのではないでしょうか。

熱い志から生まれる関係性 その価値を見つめ直す

村上　顧みると、改めて濃密な2年間だったと思います。講義を通して「会社とは何か、経営者とは何か」ということについて、とことん考え抜きました。

小林　ビジネススキルや、学問的知識を磨く場は他にもあるかもしれません。しかし、「志」を厳しく見つめ直す経験が得られるのは、多摩大学大学院ならではでないでしょうか。入学当初は、ある教授からずいぶん鍛えられました。「本当に成し遂げたいことは何なのか」という問いをもらい、悩みに悩んだことが強く印象に残っています。

村上　自分が現在進行形で抱えている課題が、そのまま講義のケーススタディとして取り上げられる。講義で得たものを会社にフィードバックし、そこで生まれた新たな課題をまた講義で共有する。その繰り返しでしたね。扱う題材があまりにリアルなので、真剣にならざるを得ない（笑）。

武内　アウトプットの力は、格段に伸びると思います。先生や学友と交える議論もそうですが、実践知の総仕上げである修士論文に取り組んだ経験は、私にとって替えがたい財産です。

小林　同感です。私も生涯の遺産を残す、というくらいの意気込みで臨みました。入学半年後の時点からテーマを考えはじめ、実際にビジネスとして実践しながら、並行して論文も書き進めるというスタイルでしたね。それはもう大変な時期を過ごしました（笑）。しかし、学びと実践がリンクして、本質に迫っていく体験こそが、多摩大学大学院の醍醐味なのではと思います。

武内　論文テーマの設定からはじまり、仮説の立て方や研究の進め方など、先生方には本当にきめ細かく指導してもらいました。長期にわたる執筆中には、「この方向性でよいのか」と不安になる瞬間がたびたび訪れるものです。先生方が丁寧なアドバイスをくれ、道を指し示してくれなければ、とても達成できたとは思えません。

村上　それこそ、少人数制のメリットですよね。先生との距離が近く、とことん付き合ってくれる。質問や課題の確認をお願いすると、おそろしく迅速にレスポンスが頂けるので、いったい、いつお休みになっているのか心配になったくらいです。

小林　実務家の先生は、ご自身のビジネスも抱えていらっしゃるはずなのに、舌を巻きますね。しかし、せっかく多摩大学大学院にいるのだから、先生方には思う存分お世話になる、といったくらいの心意気でよいのかもしれません。

村上　修了後も、さまざまなビジネス上のアドバイスを頂いている先生がいますが、私のことを人に紹介する際は、「授業をジャックしていた」とおっしゃいます（笑）。講義で食らいついていけば、ちゃんと応えてくれて、長く目をかけてくれる先生がいるというのはうれしいものです。

武内　本当にそうですね。修了して10年が経ちますが、私もいまだに先生とのつながりがあり、著書の所感をメールしては、その返信として新たな考え方やヒントをもらうことがあります。また、先生だけでなく横のつながりも貴重です。ただの学友で終わるのではなく、ビジネスを共にしたり、研究会を立ち上げたり、修了後も継続していく関係、広がるネットワークが多摩大学大学院の魅力なのだと実感しています。